

平成30年度 第2回 倉敷市環境審議会

日時 平成31年2月7日(木) 14:00~15:30

場所 倉敷市役所本庁 厚生棟2階 207会議室

1 開会・あいさつ

2 議 事

平成30年度版「倉敷の環境白書」について

3 報 告

倉敷市生物多様性地域戦略の進捗状況等について

4 その他

5 閉 会

平成30年度版

倉敷の環境白書(概要版)

◆目次

平成29年度トピックス	1 ページ
第1部 倉敷市の環境行政と概況	
1 環境に関する市民の関心	2 ページ
2 環境行政経費	3
第2部 環境施策の推進	
1 自然環境の保全	4 ページ
2 水環境の保全	5
3 大気環境の保全	6
4 騒音・振動・悪臭の規制	8
5 化学物質による汚染状況の把握	9
6 地域の環境美化の推進	10
7 ごみの排出抑制	12
8 温室効果ガスの削減	13
9 再生可能エネルギーの導入	15
10 市民全体の学習	16
11 子どもの環境教育	17

※本文中の**太字***については、各表題の後半に用語解説を掲載しています。

平成29年度トピックス

Topics1: 「クールくらしきアクションプラン」改定

関連ページ 本編73ページ

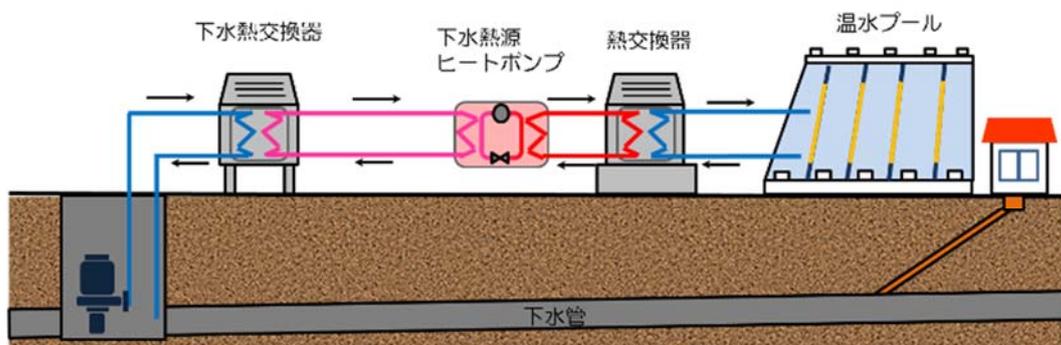
パリ協定の発効や国の「地球温暖化対策計画」の策定など、地球温暖化問題を取り巻く国内外の動向を踏まえ、本市全域の温室効果ガス削減計画である「クールくらしきアクションプラン」(倉敷市地球温暖化対策実行計画(区域施策編))を平成30年3月に改定しました。
今後は、新しい計画に基づき、引き続き地球温暖化対策を推進していきます。



Topics2: 「くらのゆ」運用開始

関連ページ 本編85ページ

生活排水や工場排水である下水水温は、大気温度に比べて夏は低く、冬は高いという特徴があります。倉敷市屋内水泳センターでは、この特徴を活かすことでCO2排出量を大幅に削減する下水熱利用設備(愛称:くらのゆ)の運用を開始しました。



くらのゆイメージ

第1部 倉敷市の環境行政と概況

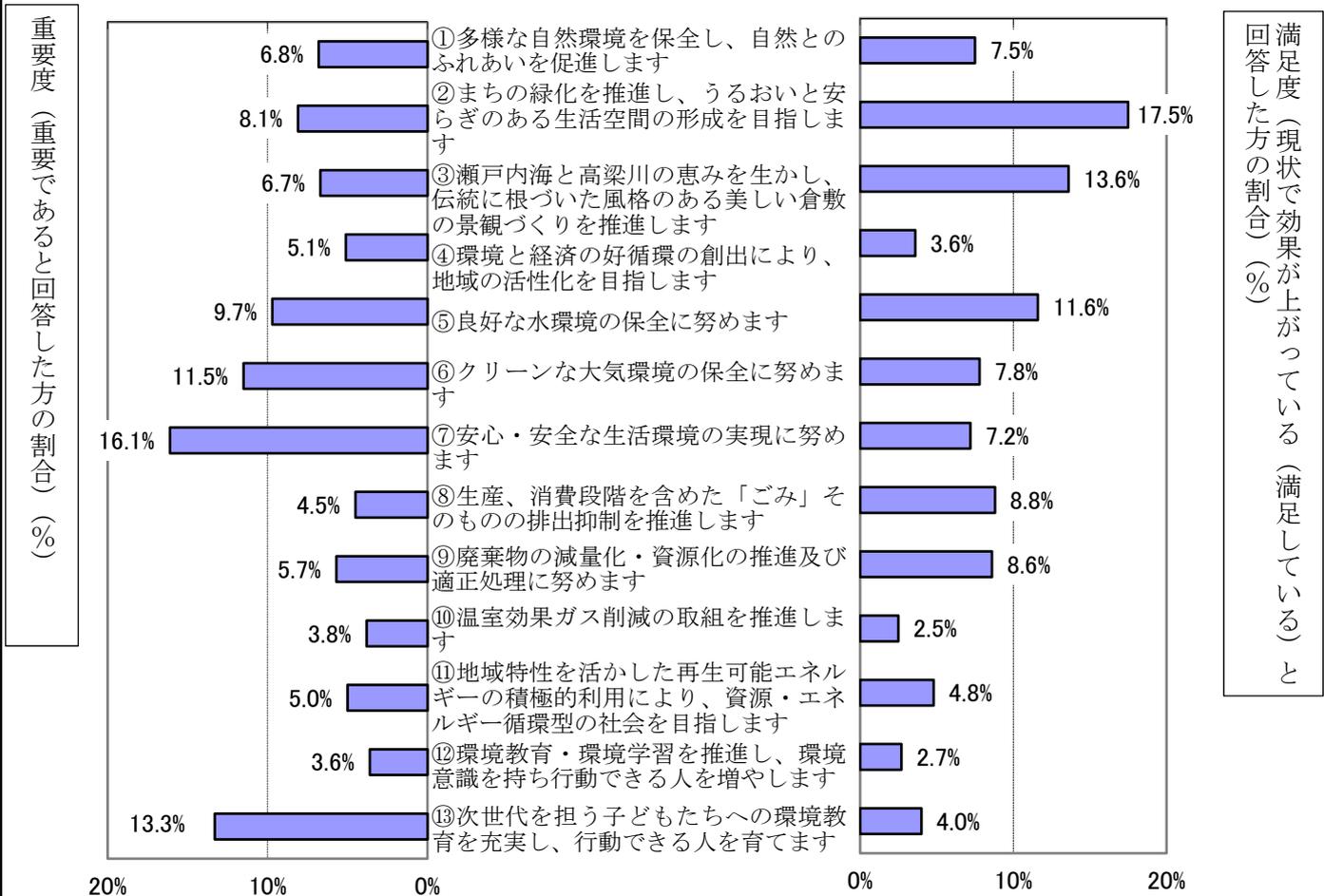
1 環境に関する市民の関心 本編 6～7 ページ

環境についての市民アンケート調査結果

本編 6～7 ページ

倉敷市第二次環境基本計画に掲げる目標値の平成29年度の達成状況の把握のため、平成30年1月に、市民2,000人(回答者数894人)に対して、市民の方が感じている身近な環境についての満足度や重要度を把握する市民アンケート調査を実施しました。結果は次表のとおりです。

◆市民アンケート調査結果



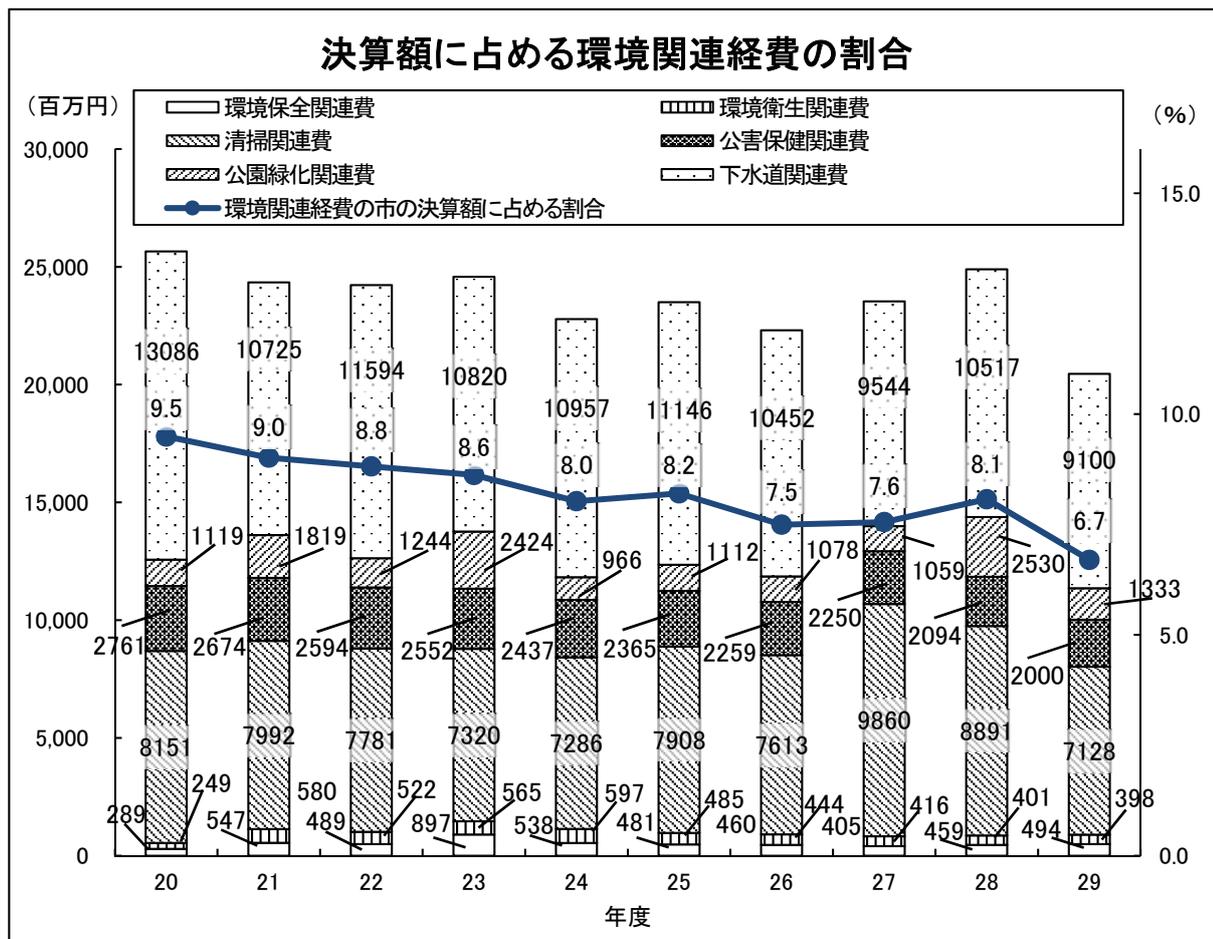
2 環境行政経費 本編 7 ページ

決算額に占める環境関連経費の割合

本編 7 ページ

近年、本市の決算額に占める環境関係経費の総額及び環境関連経費の割合は緩やかな右肩下がりで推移しています。

良好な環境を維持していくためには、多くの経費が必要ですが、限られた予算のなかで、より大きな成果が得られるように事業を推進していきます。



第2部 環境施策の推進

1 自然環境の保全 本編 12～18 ページ

市域の生物多様性の保全と、自然と私たちヒトとの共生を目指して、倉敷市環境基本計画の基本目標の一つである「環境と地域の社会・経済との調和が保たれ、豊かな自然と魅力的な景観を有しているまち」を目標に掲げ、さまざまな取り組みを行っています。実行計画として、平成 25 年度に、新たに生物多様性基本法に基づく「倉敷市生物多様性地域戦略」を策定し、事業を実施しています。

(1) 倉敷市自然保護監視員

本編 13 ページ

倉敷市自然環境保全条例の規定に基づいて自然保護監視員を委嘱し、自然環境の保全と回復に関する施策への協力や情報提供をいただいております。いただいた情報については、市のホームページにも「自然保護監視員便り」として掲載しています。各中学校区程度を基準に選出し、任期は 2 年です。平成 29 年度は、研修会を 2 回行いました。1 回目は、倉敷市少年自然の家(児島由加)で学習会・観察会を実施し、自然の魅力の伝え方について学びました。2 回目は、身近な自然環境である植物の生態について学びました。



(2) 開発行為事前協議

本編 13 ページ

開発行為などの事前協議において、事業者へ希少野生生物への配慮、生活環境の保全、法面の緑化などに関する指導を行っています。平成 29 年度は 113 件の協議を行い、このうち 5 件について、野生生物の保護、外来生物対策などについて要請しました。



スイゲンゼニタナゴ



カワバタモロコ

(3) ミズアオイ

本編 14 ページ

ミズアオイは、環境省のレッドデータブックで準絶滅危惧、岡山県のレッドデータブックで絶滅危惧 I 類に指定されています。また、岡山県希少野生動植物保護条例の指定種です。岡山県内で毎年生育が確認されるのは、倉敷川河畔の保全地区だけです。

平成 29 年度は、倉敷市立自然史博物館友の会と協力して除草作業やスクミリンゴガイ、ヌートリアなど外来生物の駆除を、保全地区において行いました。また、倉敷市立自然史博物館友の会との共催でミズアオイの種まき会や観察会を開催し、ミズアオイだけでなく、魚類など保全地区にすむ生きもの観察を行いました。



ミズアオイ

2 水環境の保全 本編 26～36 ページ

水環境の状況を把握するために、河川、海域及び地下水の水質監視を行うとともに、工場・事業場に対しては、法等に基づき立ち入り検査を行うなど、指導しました。

地下水の状況について

本編 33 ページ

地下水は、良質で年間を通じて温度の変化が少ない水資源として、古くから生活用水に利用され、また、工業用水にも利用されています。

平成元年度から市内の地下水の水質の状況を把握するために毎年5地点以上の井戸について概況調査を行っています。調査の結果、**揮発性有機化合物(VOC)***などの環境基準値を超過した井戸については、毎年継続監視調査を継続しています。

環境基準値を超過した井戸の所有者に対しては飲用しないよう助言し、また、揮発性有機化合物等を使用する事業場に対しては地下浸透の防止を指導しています。

平成 29 年度の地下水調査結果

(単位:mg/l)

調査区分	地区	調査井戸数	環境基準を超過した井戸数	テトラクロロエチレン*	ひ素	硝酸性及び亜硝酸性窒素*
概況	その他※	6	0	0.0005未満	0.005未満	0.03未満 ～4.7
継続監視調査	児島唐琴	4	3	0.0005未満 ～0.064	—	—
	真備町下二万	2	1	—	—	9.4～21
	連島中央	1	0	—	—	2.4
	連島西之浦	1	0	—	—	2.4
	堀南	1	1	—	0.020	—
環境基準値				0.01 以下	0.01 以下	10 以下

(—:測定値なし)

※西富井、茶屋町、広江、児島由加、玉島陶、船穂町柳井原

用語解説

■揮発性有機化合物(VOC)

常温で揮発しやすい化合物のことで、VOCとは、Volatile Organic Compounds の略。吸入による頭痛やめまい、腎障害などの有害性や発ガン性などの可能性が指摘されている。有害大気汚染物質及び水質汚濁に係る健康項目として、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ベンゼンなどが指定されている。

■テトラクロロエチレン

エーテルに似た臭気の揮発性が高い無色透明な液体で、引火性が低く、親油性であることからドライクリーニングや金属部品の洗浄などに使われてきた。地下水汚染等が社会問題となり製造・使用量が減少し、現在では、代替フロン原料としての用途が最も多くなっている。

■硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

肥料、家畜のふん尿及び生活排水に含まれる窒素分が微生物により酸化されること等で発生し、地下水汚染の原因となる事がある。

乳児が硝酸性及び亜硝酸性窒素を多量に摂取すると、ヘモグロビンの働きを阻害し、酸素欠乏症を起こす事がある。

3 大気環境の保全 本編 37～47 ページ

クリーンな大気環境は、私たちの健やかな暮らしに欠かすことのできないものです。工場・事業場への規制や、自動車排ガスの削減の推進など、大気環境を守るための事業を行っています。

(1) 低公害車等の導入

本編 39 ページ

本市では、走行中に大気汚染物質や温室効果ガスである二酸化炭素を排出しない電気自動車を積極的に導入しています。平成 29 年度末現在、電気自動車を合計 24 台所有し、本庁や各支所に配置しています。さらに、低公害車であるプラグインハイブリッド自動車 2 台、天然ガス自動車 1 台、ハイブリッド自動車 6 台を所有し、同じく本庁や各支所に配置しています。さらに、平成 29 年度は、環境交流スクエアに「倉敷市スマート水素ステーション」を設置し、燃料電池自動車 1 台をリースにて導入、使用を開始しました。



燃料電池自動車・スマート水素ステーション

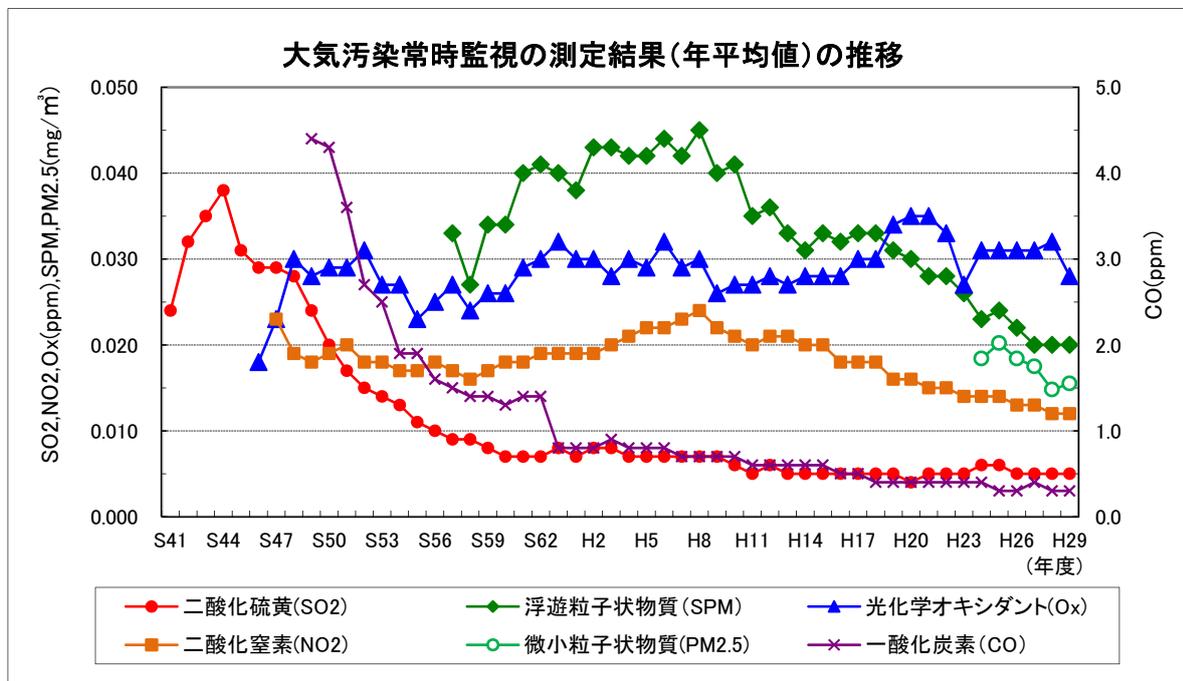
(2) 大気汚染常時監視

本編 40～42 ページ

大気環境の状況を把握し、市民へ適切な情報提供を行うために、次の事業を行いました。

◇自動測定機による大気環境の監視

二酸化硫黄及び二酸化窒素、浮遊粒子状物質*、微小粒子状物質*、光化学オキシダント*、一酸化炭素*の大気汚染常時監視の測定結果(年平均値)の経年変化は、次のグラフのとおりです。



光化学オキシダントについて、全測定局で環境基準値を超過しました。微小粒子状物質について、7局で環境基準値を超過しました。また、非メタン炭化水素について、2局で指針値を超過しました。その他の項目について、全測定局で環境基準値を達成しました。

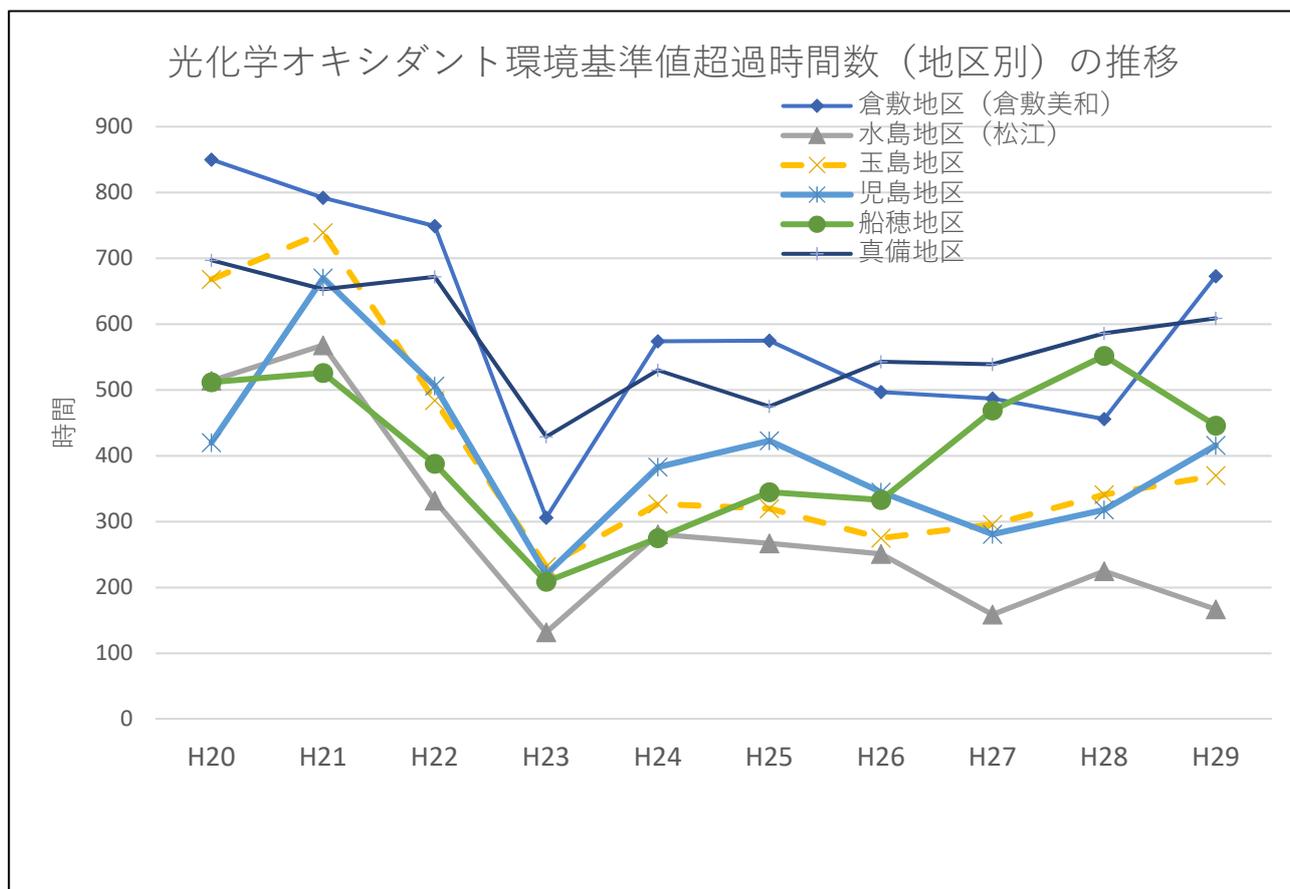
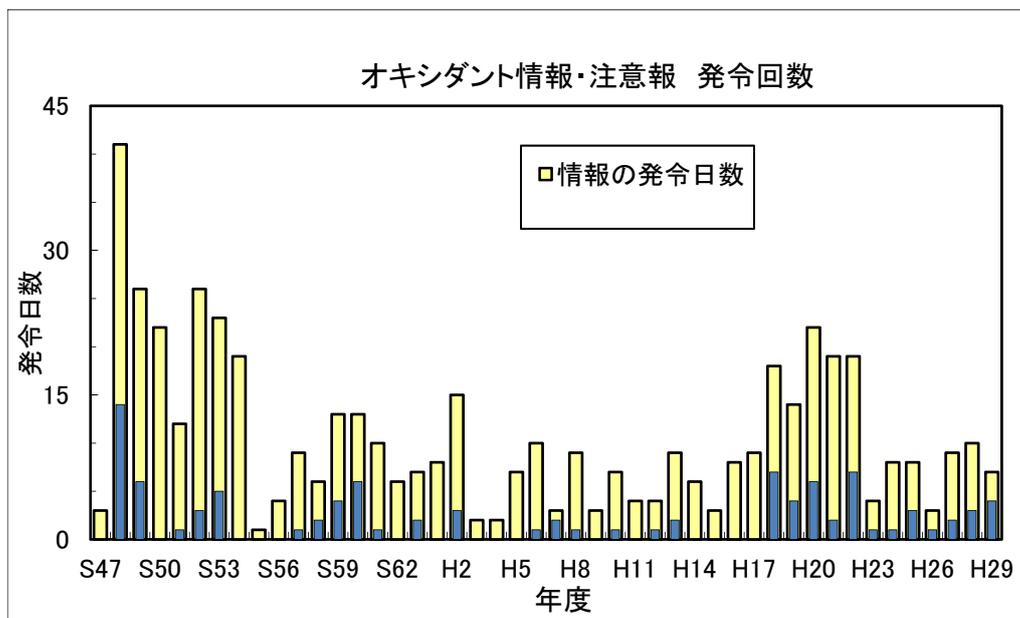
(3)大気汚染防止夏期対策

本編 43～44 ページ

倉敷市では、光化学オキシダント濃度が上昇しやすい夏期の4か月(5月10日から9月10日まで)を「大気汚染防止夏期対策期間」と定め、岡山県と協力し、監視を強化しています。光化学オキシダント濃度が上昇した場合には、「オキシダント情報・注意報」を発令し、FM放送やインターネット、電子メールを通じて発令状況を周知するとともに、学校等に連絡して被害が出ないように注意を促しています。

また、情報・注意報の発令中は、水島地区の主要な工場に対して、光化学オキシダントを生成する原因となる物質の排出量削減を要請しています。

平成 29 年度の本市における情報の発令回数は 7 回で、そのうち 4 回が注意報の発令に至りました。情報の発令回数は減少した一方で、注意報の発令回数は前年度と比較して増加しました。



用語解説

■浮遊粒子状物質(SPM)

大気中に浮遊する粒子状物質で、その粒の直径が 0.01mm 以下のものをいいます。大きさが非常に小さいため、軽く、すぐには落下せず大気中を浮遊します。工場・事業場、自動車、船舶などで使われる燃料が燃焼する過程で、すす等として発生するほか、自動車の走行によって地上から舞い上がることもあります。一方、自然界でも、黄砂や火山灰等により発生します。

■微小粒子状物質(PM_{2.5})

大気中に浮遊する粒子状物質のうちでも特に粒径の小さいものをいいます(粒径 2.5 μ m 以下の微小粒子状物質)。

PM_{2.5}は粒径が小さいため、呼吸器の奥深くまで入り込みやすいことなどから、人への健康影響が懸念されており、平成 21 年度に環境基準が設定されました。

■光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物(NO_x)と炭化水素(HC)が太陽光線の中に含まれる紫外線を受けて、光化学反応をおこし、生成するオゾン、アセトアルデヒドなどをまとめて光化学オキシダントといいます。主成分はオゾンです。大気中で雲や霧のようなスモッグと呼ばれる状態になり、光化学スモッグといいます。

高濃度になった場合には、人の目やのどへの刺激や、植物にも影響を与えるといわれているため、注意報等の発令を行い、人体被害の未然防止に努めることとしています。

■一酸化炭素(CO)

一酸化炭素(CO)は、ものが燃えるときに、不完全燃焼をすることで発生します。主な発生源は自動車です。呼吸で体内に取り込まれると、血液中で酸素を運搬するヘモグロビンと強力に結びつき、酸素の運搬を阻害する。

4 騒音・振動・悪臭の規制 本編 48～53 ページ

騒音と振動は、人々の感覚や心理に影響を与えるもので、毎年多くの苦情や相談が寄せられています。倉敷市では、この問題解決のため、工場・事業場に対する指導や**環境騒音***の状況を把握することにより、その改善に努めています。

また、悪臭とは、人に不快感・嫌悪感を与える「におい」であり、その「不快なにおい」により生活環境を損ない、感覚的・心理的な被害を与えるものです。悪臭は風などに運ばれ広がり、その影響が広範囲に及ぶこと、嗅覚の個人差や、嗜好・体調にも大きく左右される規制の難しい環境問題です。

瀬戸大橋線鉄道騒音対策について

本編 51～52 ページ

瀬戸大橋線の騒音に関しては、瀬戸大橋建設時に行った環境影響評価に基づき、努力目標値が定められています。

平成29年度では、橋梁部においては、下津井田之浦で測定し、努力目標値を達成していました。また、陸上部においては、児島上の町、木見、児島阿津の3地点で測定し、全ての測定地点で努力目標値を達成していました。



瀬戸大橋線の騒音測定

鉄道騒音測定結果

(単位: dB)

測定地点	下津井田ノ浦 (橋梁部)	児島上の町 (陸上部)	木見 (陸上部)	児島阿津 (陸上部)
測定結果	76~77	73	76	68
努力目標値	80	75		

この結果を、本州四国高速道路㈱とJR西日本、JR四国に対して通知し、今後も努力目標値達成に向け、騒音低減対策の推進と自主管理体制の徹底を要請しました。

用語解説

■環境騒音

環境騒音とは、主に交通騒音、生活騒音等、私たちが生活する場所から発生する複合した騒音の総称のことです。

5 化学物質による汚染状況の把握

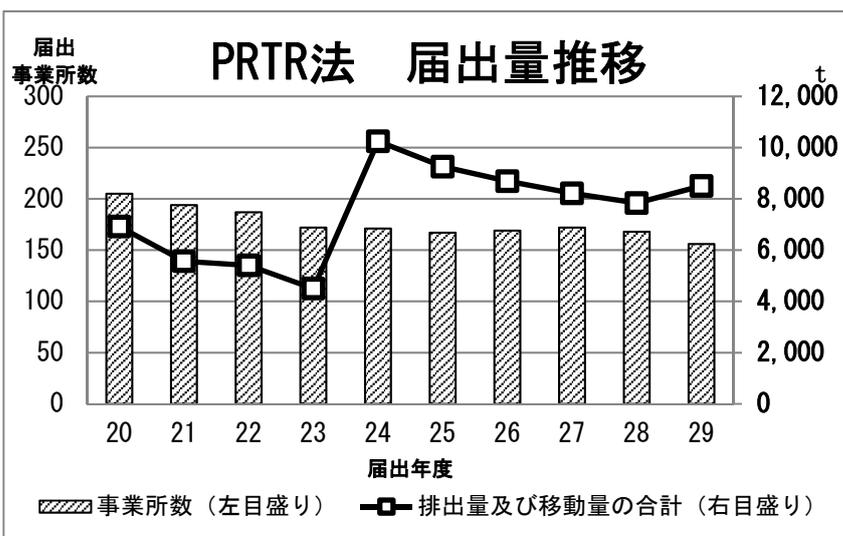
(1)PRTR法

本編 53～54 ページ

化学物質について、環境への排出状況などの情報を把握するための仕組みが、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(通称:PRTR法)」です。リストアップされた化学物質を製造したり使用したりしている事業者が、環境に排出した量と廃棄物などとして事業所の外へ移動させた量を自ら把握し、国に届け出ることを義務づけています。このことにより事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止するための法律です。

平成29年度に届出があった156事業所の届出排出量及び移動量の合計は8503tで、前年度の届出量と比較して665t増加しました。

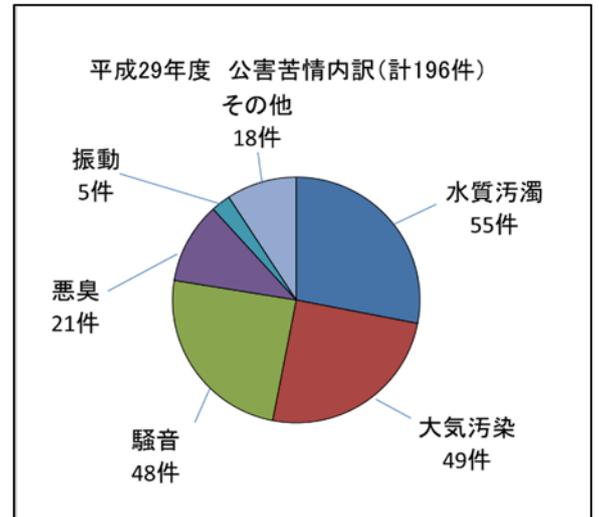
平成24年度に急増した原因は、鉄鋼業において再生資源として搬出されたスラグの計算上の取り扱いが変更されたためです。



(2) 公害苦情の対応

本編 56 ページ

公害に関する苦情は、市民の日常生活に密着していて、市民の環境に対する要求を強く反映しています。本市では、地域生活環境の保全の観点から、苦情や相談に対し、すみやかに現地調査を行い、当事者に必要な指導や助言を行うよう努めています。



6 地域の環境美化の推進 本編 57～59 ページ

(1) 環境美化に関する条例の整備

本編 57～58 ページ

「環境美化条例」は、きれいで快適なまちづくりを推進することを目的に定められたものです。

公共の場所でポイ捨てをしてはならないことや、歩行喫煙をしないように努めなければならないこと、路上喫煙制限区域での指定場所以外での路上喫煙の禁止などが定められ、だれもが快適に過ごせるように、きれいで快適なまちづくりを推進しています。



路上喫煙制限の啓発チラシ



路上喫煙制限区域

(2) 地域の環境美化活動

本編 59 ページ

◇ 地域美化推進の設置

地域の環境美化やごみの減量化・資源化に関して市と地域が連携して取り組めるように「地域美化推進員」を選任しています。

地域美化推進員は、ポイ捨て防止活動やごみの減量化・資源化推進指導など、地域のまち美化活動を牽引する役割を担っています。(平成30年4月1日現在180名)

◇ 地域清掃の実施

9月の第1日曜日を「清掃祭日」として、市と倉敷市環境衛生協議会との共同開催で「全市一斉ごみ0(ゼロ)キャンペーン」を行っています。例年約4万人の方が空き缶の回収などの美化活動に参加されています。

また、毎年春と秋に地域の住民による地区清掃が実施されています。地区清掃では生活雑排水路や道路の清掃、草刈りなどが行われています。(平成29年度760件実施)

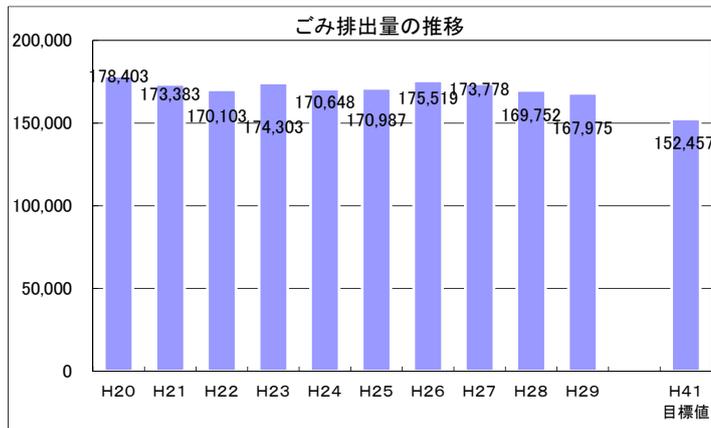
7 ごみの排出抑制 本編 60～64 ページ

ごみの大量発生は、限りある資源のむだづかいになるだけでなく、処分に伴う環境への悪影響も心配されます。また、埋立をするための処分地の確保も困難な状況となっています。このため、できる限りごみを減らし、リサイクルを行うなど資源を有効に利用できる仕組み作りが必要になっています。

(1)ごみの排出量の推移

本編 61 ページ

平成29年度のごみ(一般廃棄物)の排出量は約168千tでした。前年対比で約1.0%(1,700t)減量しました。しかしながら、一般廃棄物処理基本計画に定めるごみ減量化目標よりも、ごみの排出量は多く、一層のごみの排出抑制、再資源化に対する周知・啓発等の取組みが必要です。

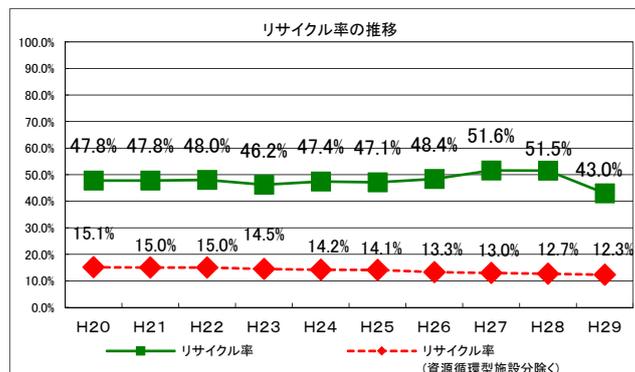


(2)リサイクルの達成状況

本編 61 ページ

倉敷市のリサイクル率は、全国的にも高いレベルで推移しており、この要因として、水島エコワークスが家庭から収集したごみを資源化処理していることなどが考えられます。(平成29年度は43.0%)特に、平成27、28年度は水島清掃工場の基幹改良工事に伴い、水島エコワークスでの処理量が増加したため、一時的にリサイクル率は上昇しています。

しかし、資源循環型処理施設分を除くとリサイクル率は、12.3%と低水準であること、ごみの排出量が依然として高水準であることなどから、出前講座、ごみステーションでの早朝指導及び広報紙などを通じての呼びかけなどにより、ごみの減量やリサイクルに対するより一層の取組みや意識の醸成を進める必要があります。



8 温室効果ガス削減 本編 73～78 ページ

地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨・熱帯雨林の減少など地球的規模の環境問題は、倉敷市だけの取り組みで解決できる問題ではありません。しかし、その原因は私たちの生活と密接に結びついていますので、一人ひとりの努力によって少しずつでも改善していく必要があります。

(1) クールくらしきアクションプラン

本編 73～74 ページ

平成 30 年 3 月には、クールくらしきアクションプランの改定を行い、2013 年度を基準年度として、2030 年度に温室効果ガス排出量を 11.6%削減するという目標を新たに設定しました。

本市では排出量のうちの80%以上が産業部門からの排出になっており、日本全体の産業部門の割合である31%と比較して倍以上となっています。これは、水島コンビナートを抱える本市の特徴を表す排出構造となっており、排出量の増減が景気動向等による影響を受けやすくなっています。

クールくらしきアクションプランの改定に際しては、事業者、市民団体、学識経験者等から構成する、倉敷市地球温暖化対策審議会を設置し、協議しました。今後も、温室効果ガスの排出状況や施策の進捗状況について、倉敷市地球温暖化対策審議会に報告し、温暖化対策の推進に関する提言をいただきます。



(2) COOL CHOICE (クールチョイス)

本編 74 ページ

国が温室効果ガス削減目標の達成のために、国民運動として推進している「COOL CHOICE」について、平成 28 年 4 月に賛同登録し、平成 29 年 6 月に市を挙げて取り組んでいくことを宣言しました。COOL CHOICEとは、地球温暖化対策に資する、あらゆる賢い選択を意味しています。平成 29 年度には、環境省が実施する「二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金(地域と連携したCO2排出削減促進事業)」の採択を受け、エフエムくらしき、倉敷ケーブルテレビ、山陽新聞等のメディアやイベントを活用して普及啓発を行いました。



(3) 中小企業者に係る省エネルギー設備等導入促進事業補助制度

本編 76 ページ

エネルギーの見える化を行い、省エネ診断に基づく省エネルギー設備等を設置することで、エネルギー管理を推進する中小企業者に対する補助を平成 29 年度より新たに始めました。上限 3,000 千円として、3 件、総額 3,293 千円の補助を行いました。

補助件数と補助単価

	補助件数	補助件数の累計	温室効果ガス削減効果の累計	補助の上限
H29	3件	3件	84.3 t-CO2/年	300万円

(4)電気自動車等導入促進補助制度

本編 77～78 ページ

本市では、走行中に二酸化炭素や大気汚染物質を排出しない電気自動車の普及を目指し、平成 22 年度より市民や事業者が電気自動車を購入したり、多数の人が利用できる駐車場に充電設備を設置する場合、その費用の一部を補助しています。平成 27 年 10 月からは、プラグから充電された電気のみでの走行時には、電気自動車と同等の環境性能を持つプラグインハイブリッド自動車、また、平成 29 年 4 月からは、水素を燃料とする燃料電池自動車にも、補助対象を拡大しました。

補助金額(平成 29 年度)

	補助対象経費	補助金の額
電気自動車・プラグインハイブリッド自動車の購入	本体購入費	1台当たり20万円(購入額が20万円未満の場合は、当該購入額)
燃料電池自動車	本体購入費	1台当たり50万円(購入額が50万円未満の場合は、当該購入額)
充電設備の設置	購入費及び設置工事費の合計額	補助対象経費に2分の1を乗じて得た額(1,000円未満の端数は切り捨て) 急速(50kW以上)上限50万円・急速(50kW未満)上限20万円・普通上限10万円

補助件数

電気自動車等の購入	H27	H28	H29	H22年度からの累計
アイ・ミーブ	7台	0台	4台	147台
ミニキャブ・ミーブ	7台	1台	1台	56台
リーフ	13台	15台	2台	133台
アウトランダーPHEV	29台	73台	20台	122台
プリウスPHV		1台	71台	72台
その他	3台	4台	2台	12台
合 計	59台	94台	100台	542台

充電設備の設置		H27	H28	H29	H22年度からの累計
急速充電設備	定格出力50kW以上	0基	0基	0基	3基
	定格出力50kW未満	0基	0基	0基	2基
普通充電設備		0基	1基	5基	6基

9 再生可能エネルギーの導入 本編 78～86 ページ

(1)住宅用定置型リチウムイオン蓄電池設置費補助

本編 80～81 ページ

太陽光発電システムやエネファームと連携することで、地産地消システムの構築や、停電時・災害時の防災の強化を図ることができる定置型リチウムイオン蓄電池の導入を促進するため、平成 29 年度より設置者への補助を新たに始めました。新築・既築住宅への設置を対象とし、上限 100 千円として、102 件、総額 9,995 千円の補助を行いました。

補助件数と補助の上限

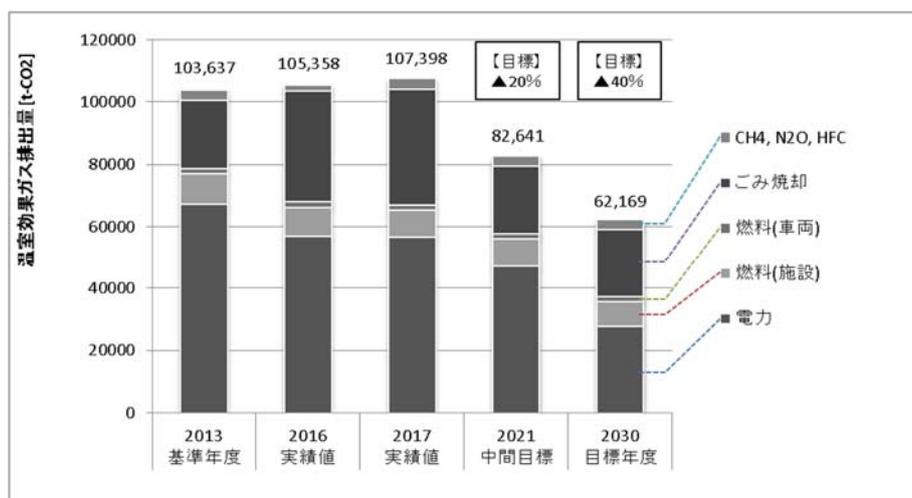
	補助件数	補助件数の累計	補助の上限
H29	102 件	102 件	10 万円

(2)倉敷市役所の温室効果ガス排出実績

本編 83～84 ページ

2017年度の温室効果ガス排出量は、2013年度(基準年)に比べると3.6%増加しました。施設・車両のエネルギー使用に伴う温室効果ガスの排出は、省エネ・節電活動で施設のエネルギー使用量が減少したこと、電力の入札で温室効果ガス排出係数が低い電力会社を採用したこと等により15.1%削減しましたが、ごみ焼却に伴う温室効果ガスの排出が増加したため、全体として増加しました。

倉敷市全体のごみ処理量は減少傾向ですが、ごみ焼却に伴う温室効果ガスの排出量の算定には課題があり、特に、焼却ごみに含まれる廃プラスチック類の割合をサンプル調査で把握する「ごみ質分析」のばらつきが、温室効果ガス排出量に大きく影響していると考えられます。



(3) 下水熱利用システム

本編 85 ページ

平成29年度に倉敷市屋内水泳センターの熱源機器であるボイラの老朽化改築に合わせて、下水熱利用のプール加温設備を導入しました。倉敷市の外気温度は冬季に-4℃程度まで低下するのに対して、下水水温は約18℃以上(実測値)と高いという特徴があります。本事業では、従来に比べてCO2排出量を30%削減(試算値)する環境性に加え、国内で初めて下水熱交換器を地上に設置した先進性が認められ、国庫補助金を受けて行いました。



下水熱交換器の外観

10 市民全体の学習

本編 87～98 ページ

環境問題に対する市民・事業者の意識を高めるため、広報活動・講演会・催し物の開催、体験型の環境学習も充実させていきます。

(1) 暮らしき環境フェスティバル

本編 88 ページ

環境月間啓発事業の中核的事業として、「暮らしき環境フェスティバル」を開催しました。「暮らしきエコの日」をコンセプトに、市の環境施策の啓発ブースのほか、市民団体・企業等37団体に出展していただき、地球温暖化啓発講演会、体験型コーナー、パネル展示などを実施し、親子づれなど、約4,600人の市民参加がありました。



ゴーヤの苗の配布



消防車等の展示

(2) 自然観察会

本編 89 ページ

倉敷市立自然史博物館では倉敷市立自然史博物館友の会などと協力してさまざまなテーマで自然観察会を開催しています。平成29年度は、「おかやま自然探訪」シリーズ、「ブッポウソウ巣立ち観察会」、「ヨタカをさがしてみよう」、「中国山地の植物観察会1」、「もう夏だ！昆虫採集」、「倉敷みらい公園の生き物しらべ」など計28回の自然観察会を開催しました。



自然観察会
「ブッポウソウ巣立ち観察会」

(3)環境学習センターの施設

本編 94 ページ

環境学習を推進するために、市内小学生の施設見学受入や、体験型の環境学習講座を実施しました。平成29年度の主な事業実績は、以下のとおりです。

- エコライブラリー 図書カード発行者数 52人、利用者数 2,059人
- エコギャラリー 展示回数 8回
- 環境学習教室 貸出件数 249件、利用者数 3,752人
- 施設見学受入 496人
- 環境学習講座等の実施 66講座2,729人(出前講座、施設見学及びイベント主催・出展を除く)



エコライブラリー



エコギャラリー



環境学習教室

(4)自然史博物館

本編 95 ページ

倉敷市立自然史博物館では自然環境に対する市民の意識を高めるため、自然観察会・博物館講座・自然史博物館まつり・特別展・特別陳列など、各種の事業を積極的に行っています。平成 29 年度は特別展として「チョウきれい！チョーたのしい！昆虫展」、企画展として高梁川流域中枢都市圏事業「ティラノが成羽にやってきた！化石は太古の生き物図鑑」、特別陳列として「草地功地学標本コレクション展」、「鳴く虫サロン」、「新着資料展 2017」、「第 25 回しぜんしくらしき賞作品展」などを行いました。

次世代を担う子どもたちのために、高校生以下は入館無料となっています。



特別展「チョウきれい！
チョーたのしい昆虫展」

11 子どもの環境教育 本編 99～101 ページ

(1)水辺教室、海辺教室

本編 99 ページ

◇水辺教室

市民生活に密接なかかわりを持つ高梁川の生き物の観察を通して身のまわりの水辺の生き物と水環境に関心を持っていただくため、高梁川河川敷(元水江の渡し付近)で「水辺教室」を開催しました。市内の親子 37 名が参加し、水のきれいさの指標となる水生生物による水質の判定やCODパケットによる測定を行いました



水辺の生き物の採取

◇海辺教室

身近な瀬戸内海にすむ生き物の観察を通じて、自然のすばらしさを体験していただき、海辺の環境や水質保全について知っていただくために児島通生の浜で海辺教室を開催しました。市内の親子 28 名が参加し、海辺の生物観察や海草・海藻の標本作りを行いました。



海辺の生き物の生物分類

(2)エコサマースクール

本編 100 ページ

小学校の夏休み期間にあわせ、環境NPO等と連携し、小学生親子を対象とした「環境」「エコ」をテーマとした体験型の環境学習講座を行いました。

期間：平成29年7月15日～8月28日 講座数：延べ37講座、1,306人受講

◇エコサマースクールinイオンモール倉敷(10講座)

「モザイク画体験」、「押し花アート教室」、「エコチャレンジ缶バッジ」、「香りの小瓶づくり」、「スタンドグラス」、「多肉植物のタブロー」、「リーフプリントエコバッグ」、「プラスプーンで甲虫づくり」、「かわいいおうちの照明づくり」、「ジェルオブジェ」



ジェルオブジェ体験

◇エコサマースクール(27講座)

「昆虫採集教室」、「海辺のエコ調べ」、「夏休みチョウの絵画教室」、「カヌー体験教室」、「ベティスミス工場見学とジーンズ生地でバッグづくり」、「ビーチグラスアクセサリー作り」、「リバートレッキング」、「エコタイルでフォトフレーム作り」、「ネイチャーフォト講座」、「うちわ発電機を作ろう」「燃料電池車を作って走らせよう」、「ソーラー扇風機作り」、「骨格標本づくり」、「夏休み★宿題応援団」(6講座)、「銀粘土でつくるリーフモチーフのチャーム」、「エコカメラ作り」、「田んぼの生き物調べ」、「水島コンビナート環境学習ツアー」、「夏休み野鳥画教室」、「昆虫標本作り教室」、「八間川調査隊」、「わくわく実験教室」



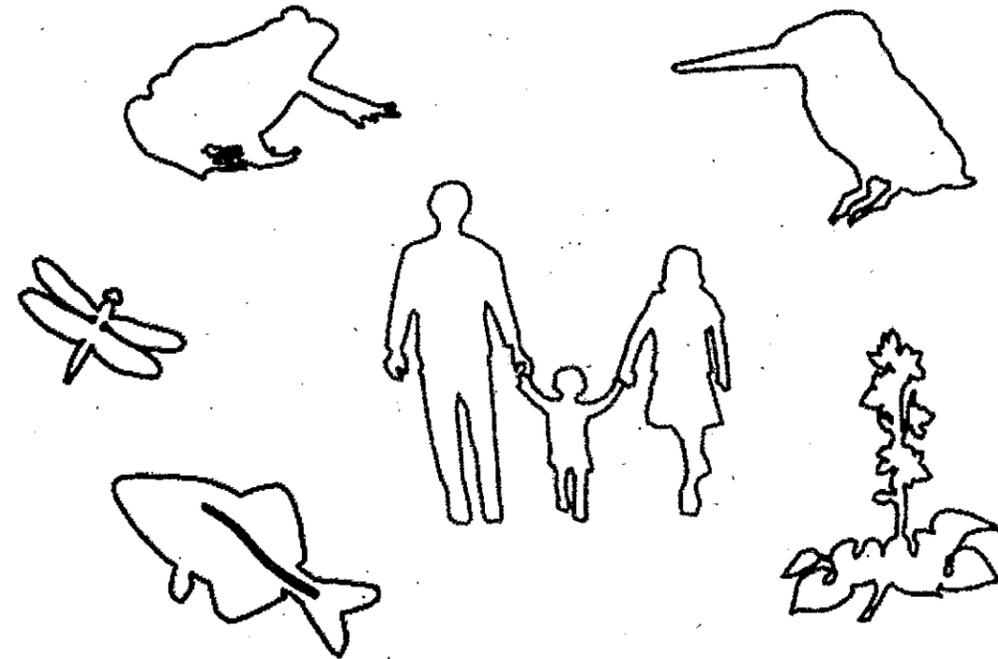
昆虫標本作り教室



カヌー体験教室

倉敷市生物多様性地域戦略

-倉敷の豊かな自然と瀬戸内の恵みを未来へつなぐために-



実施事業計画表

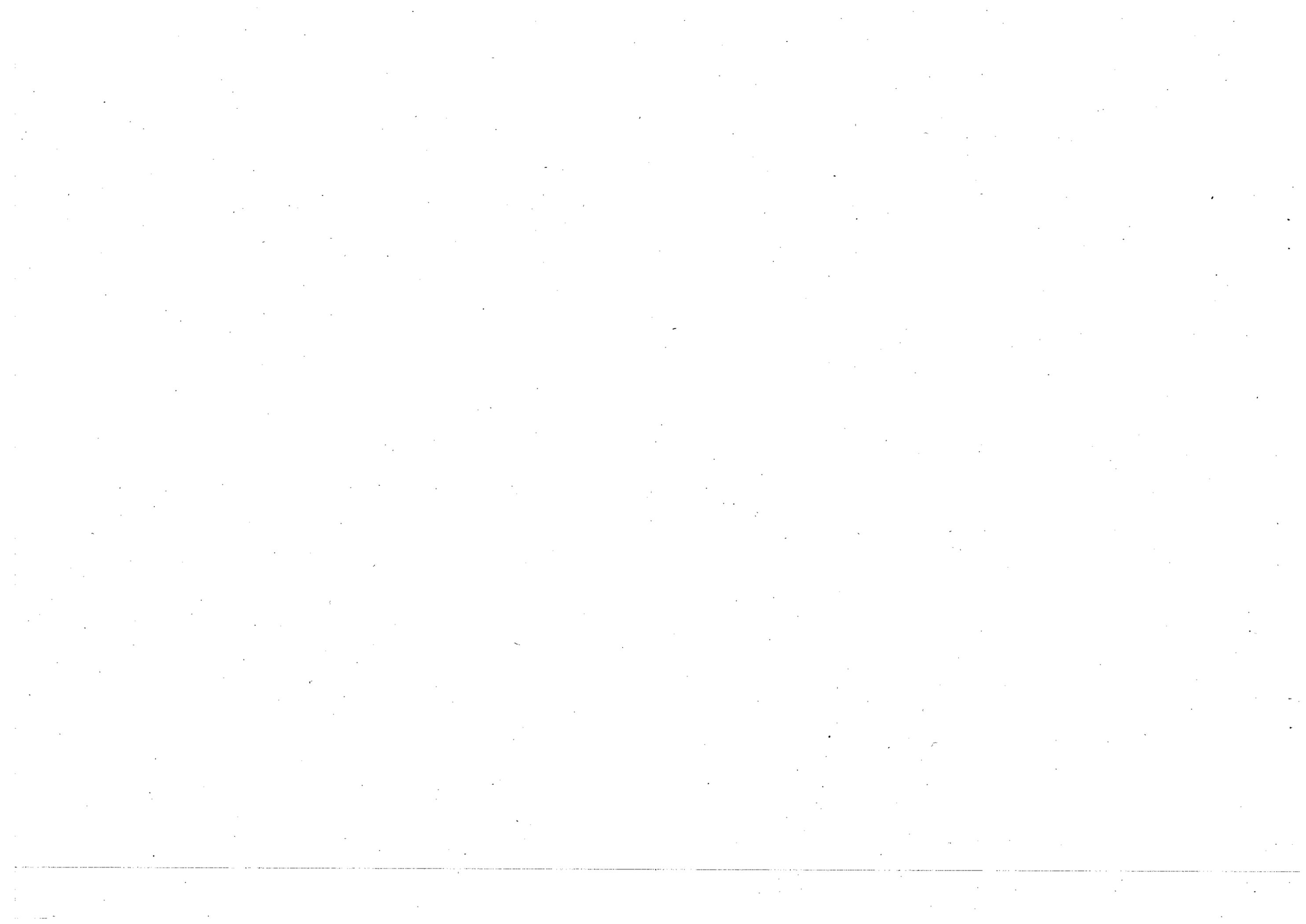
実施事業計画(平成29年度実績・平成30年度～平成33年度)

-概要-

倉敷市環境政策課

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性



数値目標達成状況

倉敷市生物多様性地域戦略では、以下の4つの基本目標を掲げています。

- 基本目標1: 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。
- 基本目標2: 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。
- 基本目標3: 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。
- 基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて行動できる人づくり、地域づくりを行う。

本資料は、これら目標達成に向けた、「進捗状況」及び「実施事業の実施状況と予定」を示します。

最初に示す(右表)「数値目標達成状況表」は、基本目標達成に向けた各数値目標の達成状況を示しています。

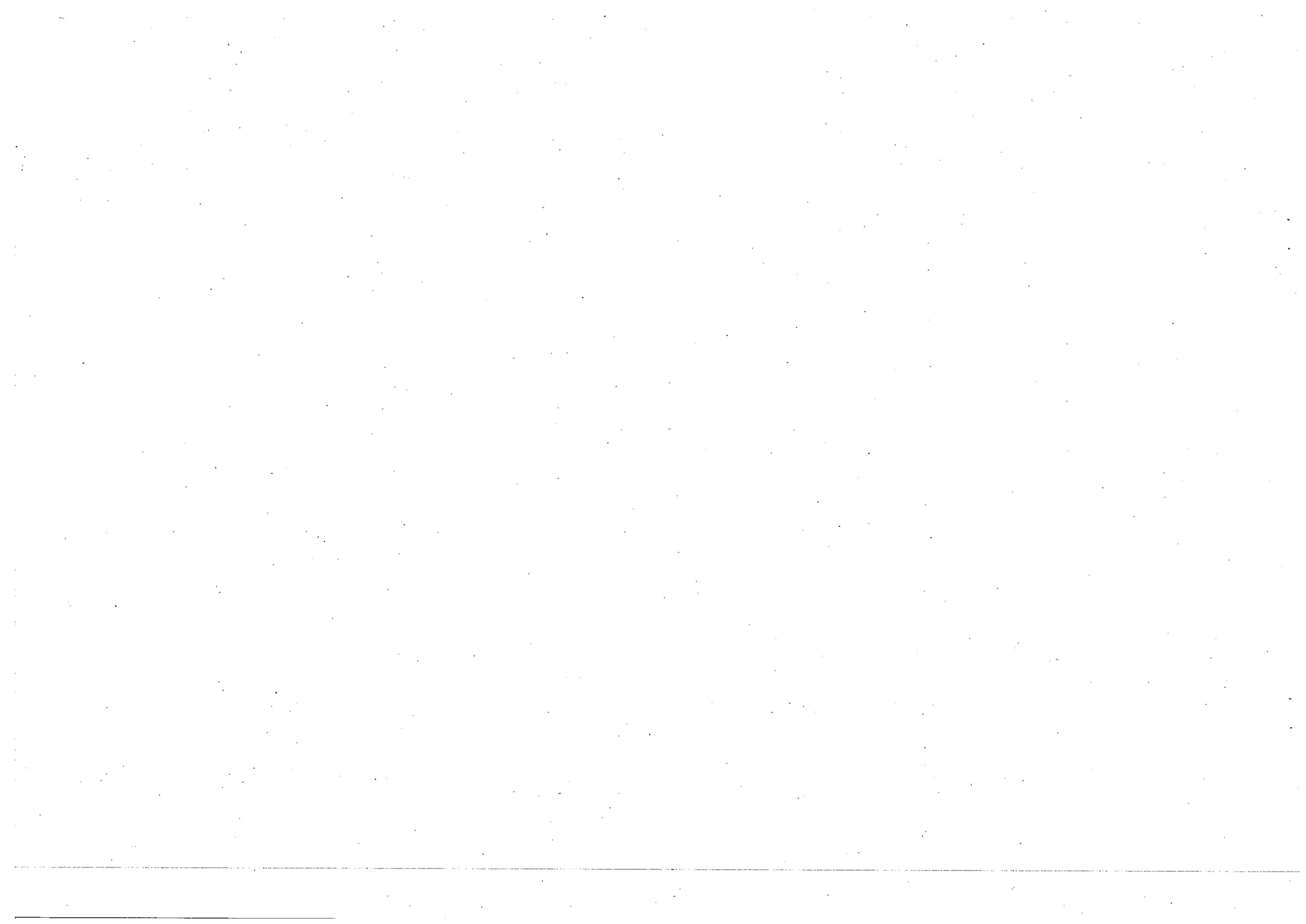
2ページ以降の「事業実施計画表」には、基本目標達成に向けた2020年までの短期的な取り組みについて、基本目標ごとに事業の実施状況を示しています。

グレーの網掛けが「リーディングプロジェクト」、網掛けなしが「その他の取り組み」であり、事業ごとに示しています。

なお、リーディングプロジェクトとは、戦略の基本目標の実現に向けて戦略全体をリーディングする誘導的なプロジェクト事業のことです。

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。								
番号	項目	基準値	基準年度	H29年度実績	傾向	目標値	達成年度	担当部署
1	自然環境基礎調査	1地区 (真備町妹)	2013 (H25)	0地区		継続実施	—	環境政策課
基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。								
1	自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	27.4%	2009 (H21)	33.2%		54%	2020年 (H32)	環境政策課
2	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	38.4%	2011 (H23)	39.7%		72%	2020年 (H32)	環境政策課
3	多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じている人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	32.5%	2009 (H21)	31.2%		56%	2020年 (H32)	環境政策課
4	都市公園の目標水準	7.79㎡/1人	2005 (H17)	8.15㎡/1人		10㎡/1人	—	公園緑地課
5	特定外来生物の防除	306頭: ヌートリア	2012 (H24)	269頭: ヌートリア		被害額の低減及び生息頭数の減少	—	環境政策課 農林水産課
6	自然環境に配慮した工法により整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(H23年度からの積み上げ件数)	5件	2011 (H23)	31件		100件	2020年 (H32)	環境政策課
7	温室効果ガス排出量の抑制(市内全域)	3,957万トン	2007 (H19)	3,397万トン (H26)		3,482万トン	2020年 (H32)	地球温暖化対策室
8	市内で下水道を利用できる人の割合	71%	2010 (H22)	78.9%		79.7%	2020年 (H32)	下水計画課
9	合流式下水道を改善した面積の割合	22%	2010 (H22)	100%		100%	2015年 (H27)	下水計画課
基本目標3 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。								
1	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	41.7%	2010 (H22)	24.8%		60%	2020年 (H32)	環境政策課
2	「環境保全型農業直接支援対策」取組面積	2,172a	2012 (H24)	3,820a		3,000a	2015年 (H27)	農林水産課
3	市民農園区画数	771区画	2012 (H24)	707区画		現状維持	—	農林水産課
4	新規就農者数	8人	2012 (H24)	17人		10人	2015年 (H27)	農林水産課
5	有機JAS認定農業者数(団体)	8団体	2012 (H24)	8団体		10団体	2015年 (H27)	農林水産課
6	おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体)	6団体	2012 (H24)	6団体		10団体	2015年 (H27)	農林水産課
基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。								
1	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合(倉敷市第六次総合計画指標)	87.6%	2009 (H21)	85.3%		95%	2020年 (H32)	環境政策課
2	親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	58.4%	2009 (H21)	55.6%		77%	2020年 (H32)	環境政策課
3	身近な自然を守る活動を行っている人の割合(倉敷市第二次環境基本計画指標)	10.9%	2009 (H21)	9.5%		20%	2020年 (H32)	環境政策課
4	自然がかけがえの無い大切なものだと感じている子供の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	71.7%	2009 (H21)	76.9%		95%	2020年 (H32)	環境政策課
5	自然にふれる活動に参加している子どもの数(倉敷市第六次総合計画指標)	14,537人	2009 (H21)	13,171人		19,700人	2020年 (H32)	環境政策課

※ 表中の項目のうち、H29年度集計が行われていないものについては、確認可能な最新の実績としている。



倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

◆分野別目標1:生物多様性調査の実施

【基本方針】

豊かで多様な自然環境を有する本市の生態系とその基盤となる生物に関する自然史資料等情報について、倉敷市立自然史博物館を核に、市民、市民団体、生産者、事業者、教育・研究機関と協働を図りつつ積極的に調査・収集します。

◆実施事業一覧表【基本目標1-1 生物多様性調査の実施】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考	
生物多様性調査の実施	調査体制の構築		市内における自然調査を継続的に実施できる体制を構築する	自然観察会や出前講座等の野外活動の機会を利用して調査を実施した	自然観察会や出前講座等の野外活動の機会を利用して調査を実施する	継続実施	→	自然史博物館	-	-	-		
			事業化に向けた検討を行った	自然調査を継続的に実施できる体制を検討する	継続実施	→	環境政策課	-	-	-			
	自然環境調査の実施	地域の自然環境に詳しい専門家(ローカルナチュラリスト)と連携した自然調査を実施する		館外の研究者に必要に応じて情報を開示し、収集資料の研究や共同研究を実施した	館外の研究者に必要に応じて情報を開示し、収集資料の研究や共同研究を実施する	継続実施	→	自然史博物館	-	-	-		
				事業化に向けた検討を行った	専門家の活動状況の把握に努める	継続実施	→	環境政策課	-	-	-		
		中学校・高等学校と連携した自然調査を実施する		中学校・高等学校における自然観察等の実態の把握に努めた	中学校・高等学校における自然観察等の実態の把握に努める	事業化検討		教育委員会	-	-	-		
			事業化に向けた検討を行った	中学校・高等学校における自然観察等の実態の把握に努める	事業化検討		環境政策課	-	-	-			
		市民参画による自然調査の実施、携帯クラウドシステムの活用を推進する		富士通株式会社の支援を受け、携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用して市内の生き物調査を実施した	富士通株式会社の支援を受け、携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用して市内の生き物調査を実施する(サービスはH30年度終了予定)	事業終了予定		環境政策課	-	-	-		
			携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用した生き物調査に対し、種の同定等、必要に応じ支援を行った	携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用した生き物調査に対し、種の同定等、必要に応じ支援を行う	事業終了予定		自然史博物館	-	-	-			
		本市の自然環境の特徴である水辺空間について自然環境基礎調査を実施する		高砂町中島柳井原線新架橋設置に伴う河川環境調査の支援を行った(H26年度事業終了)					環境政策課	-	-	-	
			高砂町中島柳井原線新架橋設置に伴う河川環境調査を実施(H26年度終了)					街路課	-	-	-		

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

実施内容	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考	
生物多様性調査の実施	市内の山系の自然環境調査	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、動植物を中心とした資料収集、データ整理などにより生息状況調査を行い、自然環境を把握する	継続	玉島柏島などで、独自調査及び調査協力を行った	独自調査及び調査協力を行う	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0		
			継続	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎ、動植物を中心とした生息状況の把握に努めた	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎ、動植物を中心とした生息状況調査調査を行う	継続実施	→	→	環境政策課	0	0	0		
	貴重な山林の把握	良好な自然環境を有する山林の調査と資料の収集	継続	鶴形山など、良好な自然環境を有する山林(社寺林)等の調査、資料収集・保管を随時行った	良好な自然環境を有する山林(社寺林)等の調査、資料収集・保管を随時行う	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0		
	市内の里山調査	身近な自然である里山の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる	継続	向山など、良好な自然環境を有する里山の調査、資料収集・保管を随時行った	良好な自然環境を有する里山の調査、資料収集・保管を随時行う	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0		
			継続	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である里山の実態把握に努めた	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である里山の実態把握を行う	継続実施	→	→	環境政策課	0	0	0		
	市内の公園調査	身近な自然である公園の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる	継続	倉敷みらい公園で、「生きもの調査」を自然観察会として年4回実施し、資料収集にも努めた	身近な緑地である公園などの自然調査、資料収集・保管を随時行う	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0		
			継続	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である都市公園などの実態把握に努めた	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である都市公園などの実態把握を行う	継続実施	→	→	環境政策課	0	0	0		
	市内の海岸調査	身近な自然である砂浜、干潟、磯などの自然海岸の実態把握に努め、保全に向けた施策の検討に繋げる	継続	児島付近など、良好な自然環境を有する海岸の調査、資料収集・保管を随時行った	良好な自然環境を有する海岸の調査、資料収集・保管を随時行う	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0		
			継続	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である海岸の実態把握に努めた	自然史博物館、自然保護団体等の協力を仰ぎながら、身近な自然である海岸の実態把握を行う	継続実施	→	→	環境政策課	0	0	0		
	「倉敷川の清流化を目指す」事業	市民企画提案事業「倉敷川の清流化を目指す大学協働推進事業」の一環で、倉敷川の生き物・水質調査を実施する	終了	H26年度事業終了						市民活動推進課企画経営室	-	-	-	
	生物多様性戦略に向けた自然環境調査	生物多様性地域戦略策定のための基礎資料として市内の自然環境保全基礎調査を実施する	終了	真備妹地区の自然環境基礎調査を実施した(H25年度終了)	他地区における自然環境基礎調査の事業化を検討する					環境政策課	-	-	-	
	「倉敷の生き物を探そう！」事業	生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする	継続	生物多様性地域戦略推進のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集を行った(51件の投稿があった)	富士通株式会社の支援を受け、携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用して市内の生き物調査を実施する(サービスはH30年度終了予定)	事業終了予定				環境政策課	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(3)

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

◆分野別目標2:生物多様性に係る情報の整備・充実

【基本方針】

本市における自然環境に関する情報について倉敷市立自然史博物館を核に、関係機関との連携を図りつつ分析、評価及び将来への継承に努め、関係者及び市民に広く提供することにより生物多様性の保全、回復、再生に役立てます。

◆実施事業一覧表【基本目標1-2 生物多様性に係る情報の整備・充実】

実施内容	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
生物多様性に 係る情報の 整備・充実	地域活動を通じた生物多様性の保全	地域で実践している生物多様性に関する活動をより発展的に進めるため、事業の提案や助言、自然調査等の支援ができる仕組みづくりを構築する		事業化に向けた検討を行った	生物多様性保全事業の提案や助言、自然調査等の支援ができる仕組みづくりを検討する	継続実施	→		環境政策課 市民活動推進課 各担当課	-	-	-	
	関係部署における情報共有	本市が実施している自然体験フィールドやイベント、環境学習活動、環境学習施設の紹介、野生動物や自然環境に関する情報を提供する ⇒関係部署で、野生動物や自然環境に関する情報等の生物多様性に関する情報が共有されていないため、収集した情報を整理し、提供して、市民活動の推進につなげる	リーディングプロジェクト	5月22日の国連生物多様性の日、自然と親しむ月間等において、関係部署の関連情報を取りまとめ、情報提供を行った	5月22日の国連生物多様性の日、自然と親しむ月間等において、関係部署の関連情報を取りまとめ、情報提供を行う	継続実施	→		環境政策課 市民活動推進課 環境学習センター 農林水産課 観光課 指導課 教育センター 生涯学習課 少年自然の家 自然史博物館 市民学習センター 科学センター	-	-	-	少年自然の家は、H32年度、H33年度に閉所して建替えの予定。
		「倉敷市生物多様性地域戦略」に係る情報提供を推進する		生物多様性地域戦略概要版を配布し、情報提供を行った	生物多様性地域戦略概要版を配布し、情報提供を行う	継続実施	→		環境政策課 環境学習センター 自然史博物館	-	-	-	
	自然史博物館の施設整備	常設展示資料の補完的更新を行い、収蔵庫の拡張に努める	継続	動くナウマンゾウ親子のメンテナンスや検索用パソコンのデータ更新、展示品の追加などを行った	展示物等の補修メンテナンスを行う	継続実施	→		自然史博物館	126	125	126	予算・実績は展示事業の設備保守点検委託料
	特別展(特別陳列)の開催	岡山県内を中心として自然史全般について常設展示で盛り込めていないテーマについて、収蔵資料や外部団体の協力を生かした展示を行う	継続	「ティラノが成羽にやってきた！化石は太古の生き物図鑑」(会場:高梁市成羽美術館)、「チョウきれい！チョーたのしい！昆虫展」「草地功地学標本コレクション展」「鳴く虫サロン」「新着資料展2017」「しぜんしくらしき賞作品展」を開催した	「岡山の野鳥たち～むかし・いま・みらい～」「新着資料展 富山哲夫チョウ類コレクション」「鳴く虫サロン」「折り紙昆虫展」「新着資料展2018(総合)」「新着資料展2018(昆虫)」「しぜんしくらしき賞作品展」を開催する	継続実施	→		自然史博物館	3,977	3,946	2,363	予算・実績は展示事業+特別展事業
	自然環境基礎調査及び資料の収集、保管	他の自然史博物館、研究機関と交流を行い、収集資料を交換し市民に資料提供を行う	継続	西日本自然史系博物館ネットワーク加盟館園や岡山県博物館協議会加盟館園などと交流を行い、市域内外にわたる自然環境について、機会あるごとに調査を進め、標本資料や文献資料の収集保管を行った	他の自然史博物館、研究機関と交流を行い、また市域内外にわたる自然環境について、機会あるごとに調査を進め、標本資料や文献資料の収集保管を行う	継続実施	→		自然史博物館	1,418	1,417	1,659	予算・実績は標本・文献等収集事業
	自然環境指標生物についての基礎的研究	自然環境指標となる生物について基礎的研究を行う	継続	倉敷市生物目録の補完調査ならびに動植物の分布調査、分類学的、生物地理学的研究を進め、成果を研究報告や博物館講座などで公表した	倉敷市生物目録の補完調査ならびに動植物の分布調査、分類学的、生物地理学的研究を進める	継続実施	→		自然史博物館	0	0	0	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(4)

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

施策内容	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
生物多様性に係る情報の整備・充実	市域外での調査研究	市内の生物相の特徴を浮き彫りにするため、倉敷市域外での調査研究を行う	継続	市内の生物相の特徴を浮き彫りにするため、岡山県内の市域外(真庭市・鎭野町・井原市・岡山市など)の自然についても調査や資料収集を行った 県外においては三重県・奈良県で資料収集を行った	市内の生物相の特徴を浮き彫りにするため、岡山県内全域の自然についても調査や資料収集を行う 県外においては愛媛県で資料収集を行う	継続実施	→	→	自然史博物館	1,345	1,339	896	予算・実績は調査研究事業
	水辺教室	高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・水辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月30日(日) 37人参加 ・高梁川河川敷	・水辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月28日(土) ・高梁川河川敷	継続実施	→	→	環境学習センター 市民学習センター	81	75	106	
	海辺教室	磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・海辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月2日(日) 28人参加 ・児島通生海岸	・海辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月22日(日) ・児島通生海岸	継続実施	→	→	環境学習センター 市民学習センター	82	59	82	
	井戸、湧水に関する情報収集と情報提供	自然保護監視員や市民からの情報提供を求め、HPで情報提供を行う	継続	認定済みの井戸・湧き水について、HPで情報提供を行った	HPで情報提供を行う 新規に認定すべき井戸・湧水について情報提供を受け、調査を行う	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
	巨樹・老樹等の保護	自然保護監視員や市民からの情報提供を求め調査し顕彰する	継続	自然保護監視員や市民からの情報をもとに、巨樹・老樹等の案内板を更新した	情報の収集と提供を行い、新たな樹木を認定する 巨樹・老樹の老朽化した案内板を更新する	継続実施	→	→	環境政策課	44	40	65	
	自然海岸、海浜、干潟の調査	自然保護団体の協力で海岸線、海浜、干潟の現状を把握する	継続	自然史博物館友の会の行事「干潟の生物の観察会」(倉敷市)、「ウミホタル観察会」(倉敷市)、「再訪・北木島の自然」(笠岡市)に協力しつつその現地の調査を行った 別途、独自調査及び調査協力を行った	自然史博物館友の会の行事「干潟の生き物しらべ」(倉敷市)、「再訪・鴻島の自然」(備前市)に協力しつつその現地の調査を行う 別途、独自調査及び調査協力を行う	継続実施	→	→	自然史博物館	-	-	-	
			継続	市内の藻場の状況・変遷について、情報収集を行った	市内の藻場の状況・変遷について、情報収集を行う	継続実施	→	→	環境政策課	0	0	0	
	自然保護監視員制度の活用	自然保護監視員から身近な地域における自然環境の話題、情報を収集する	継続	連絡会議や定期的な報告書により、市内自然環境の状況、外来生物侵入の状況について情報収集を行った	連絡会議や定期的な報告書により、市内自然環境の状況、外来生物侵入の状況について情報収集を行う	継続実施	→	→	環境政策課	256	206	256	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

◆分野別目標1:総合的・計画的な保全体系の拡充

【基本方針】

生物多様性の保全は長期的な取り組みが必要な新しい地域課題であることから、地域の多様な生態系・生物種が現状程度に保持されるとともに、希少種、貴重な生態系の保全、回復、再生施策を推進するため、総合的・計画的な保全体系の拡充を図ります。

◆実施事業一覧表【基本目標2-1 総合的・計画的な保全体系の拡充】

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
市全域	生物多様性の保全体系の拡充	総合的・計画的な保全体系を拡充する	リーディングプロジェクト	事業化に向けた検討を行った	総合的・計画的な保全体系の拡充について検討する	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
		生態系の現状を踏まえた土地利用の推進、および開発における環境配慮の拡充等による、自然生態系、人と自然のふれあいに係る生態系、市街地の都市公園・緑地等の生態系を保全する		国が進める環境保全型農業直接支援対策等の普及を進めた	国が進める環境保全型農業直接支援対策等の普及を進める	継続実施	→	→	環境政策課 農林水産課	-	-	-	
		環境影響評価制度の活用を図る		法、条例に係る事業については、環境保護及び環境保全措置を積極的に要望した	法、条例に係る事業については、環境保護及び環境保全措置を積極的に要望する	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	

◆分野別目標2:地域の自然と生態系ネットワークの保全

【基本方針】

水と緑のつながりを確保し、地域の生態系ネットワークを保全、回復、再生するため、防災や利用との調和を図りながら、住宅地等民有地や工場、事業所、遊休地等の緑化を図り、生き物の生息・生育空間及び移動経路に配慮した空間の形成を目指します。

◆実施事業一覧表【基本目標2-2 地域の自然と生態系ネットワークの保全】

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
森・山	循環的活用の推進	豊かな生態系を循環的に活用するため、上流域も含め、市民活動団体との協働により森林保全の実施を支援・推進する	リーディングプロジェクト	高梁川流域における市民活動団体の活動について、広報等を通じて支援した	高梁川流域における市民活動団体の活動について、広報等を通じて支援する	継続実施	→	→	環境政策課 担当事業課	-	-	-	
市街地	屋上緑化、壁面緑化の推進	マンションや戸建住宅、工場等にある緑地において、特定外来生物等の他の植生に悪影響をもたらす植物の除去や、植栽等の景観も含めた保全が行えるよう方針を作成する		屋上緑化、壁面緑化の方針について先事例等情報収集を行った	屋上緑化、壁面緑化の方針について先事例等情報収集を行う	継続実施	→	→	環境政策課 公園緑地課 開発指導課 市街地開発課 住宅課	-	-	-	
	公園・緑地整備計画の推進及び支援	生物多様性に配慮した公園・緑地整備計画の支援を推進し、民間開発事業に伴う緑化の支援及び指導を行う		法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導した	法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導する	継続実施	→	→	公園緑地課 各担当課	-	-	-	
市全域	自然に配慮した景観保全	豊かな自然と良好な景観を保全するため、条例に従い、規制・指導を行う		法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導した	法・条例に基づき、緑の保全が図られるよう規制・指導する	継続実施	→	→	公園緑地課	-	-	-	
	各種団体との連携推進	生物多様性の保全について、NPO法人や地域団体等の各種団体と調整を図るとともに、地域連携保全活動計画策定の検討を図る		本市固有の豊かな自然を生かした都市景観の形成が図られるよう指導した	本市固有の豊かな自然を生かした都市景観の形成が図られるよう指導する	継続実施	→	→	都市景観室	-	-	-	
			各団体の実態把握及び地域連携保全活動計画の導入可能性について検討した	各団体の実態把握及び地域連携保全活動計画の導入可能性について調査する	継続実施	→	→	環境政策課 環境衛生課 市民活動推進課	-	-	-		

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
市全域	市以外の公共事業における環境保全措置	国や岡山県などが、本市において実施する公共事業に対して、必要な協力を行いつつ、重要地域での事業実施回避も含め、当該地域での生物多様性への影響を最小限に抑えることを求め、また、必要に応じ、十分な代償措置を求める	リーディングプロジェクト	必要に応じ、事業による生物多様性への影響を最小限に抑えることを求め、また、必要に応じ、十分な代償措置を求めた	必要に応じ、事業による生物多様性への影響を最小限に抑えることを求め、また、必要に応じ、十分な代償措置を求める	継続実施			環境政策課 各担当課	-	-	-	
	ビオトープの設置促進	小学校、公共施設等へのビオトープの設置を手助けする	継続	継続実施					環境政策課	0	0	0	
森・山	「倉敷美しい森」管理事業	地元へ管理委託	継続	地元へ管理委託して施設を保全した	地元へ管理委託して施設を保全する	継続実施			児島・産業課	2,363	2,363	2,363	
	「真備美しい森」管理事業	地元へ管理委託	継続	維持管理					真備・産業課	5,041	6,473	5,182	
	「ふれあいの森」管理事業	地元へ管理委託	継続	地元へ管理委託して施設を保全した。	地元へ管理委託して施設を保全する	継続実施			児島・産業課	2,699	2,699	2,699	
	種松山野草園管理	野草園の管理	継続	移植植物の維持管理を行った	移植植物の維持管理を行う	継続実施			環境政策課	424	424	484	
	「愛宕山森林公園」管理事業	愛宕神社を中心に広がる緑豊かな森林公園の草刈りやトイレ清掃などを管理委託により保全する	継続	公園内の草刈、トイレ清掃等を管理委託により保全した	公園内の草刈、トイレ清掃等を管理委託により保全する	継続実施			船穂・産業係	5,225	4,573	3,347	
	「ツツジ山再生プロジェクト」事業	市民企画提案事業「ツツジ山再生プロジェクト」により、旧帯江銅山(中庄)にツツジを植え、かつて栄えたツツジ山を復活させる	継続	ツツジの苗木の育成及び植栽	H29年度事業終了				市民活動推進課	270	270	0	協働団体「ツツジ山再生プロジェクト」
	自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施	自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理を行う	継続	希少種の生息状況など自然環境保全に係る情報を収集し、事業部署に情報を提供、手助けすることにより、生物に配慮した施工、維持管理に反映させた	希少種の生息状況など自然環境保全に係る情報を収集し、事業部署に情報を提供、手助けすることにより、生物に配慮した施工、維持管理に反映させる	継続実施			環境政策課	-	-	-	
河川・水辺			継続	東三間川用水路改修工事(その1) 西部排水路改修工事	東三間川用水路改修工事 L=80.0m, W=3.8m	継続実施 事業休止(H30)			水島支所・産業	5,350 8,000	4,698 8,392	6,000 -	
			終了	水島6号水路改修工事 L=73.18m(平成26年度事業終了)					水島支所・産業	-	-	-	
			継続	鶴新田17号水路改修工事	鶴新田17号水路改修工事 L=29.0m	継続実施			水島支所・産業	4,000	3,521	4,000	
			継続	西部排水路藻刈業務委託 福田用水路清掃業務委託	西部排水路藻刈業務委託 福田用水路清掃業務委託	継続実施 継続実施			水島支所・産業	5,000 1,200	2,830 712	5,000 1,200	
			継続	帯江162号水路改修工事 ほか4件	帯江256号水路改修工事 ほか6件	水路改修工事10 件程度	水路改修工事 10件程度	水路改修工事 10件程度	耕地水路課	57,000	42,701	47,000	
			継続	溜川公園水辺ゾーン及び現況ヨシ原維持管理	地域団体・NPOの協力のもと、水辺ゾーン及び現況ヨシ原の維持管理及び保全を行う	継続			玉島・建設課	489	489	489	随時見直しあり
	阿津遊水池環境保全事業	遊水池の環境整備(測量、設計委託、整備)	継続	遊水池整備	維持管理			児島・産業課	0	0	0		
	自然保護団体の湿地復元、保護活動への支援	湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する	継続	自然保護団体の活動に対して技術情報提供などにより支援した	自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する	継続実施			環境政策課	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(3)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
市街地	「由加のビオトープづくり」事業	市民企画提案事業「由加のビオトープづくり」により、由加の休耕田にビオトープを整備する	終了	H26年度事業終了					市民活動推進課	-	-	-	協働団体「由加の自然を育む会」
	街区公園の整備	街区公園の整備	継続	用地取得 整備工事	用地取得 整備工事	継続実施	→	→	公園緑地課	201,500 209,132	201,550 127,837	34,405 51,476	
	「茶屋町の干拓史跡・真如庵庭園の自然観察公園への改修とその活用」事業	市民企画提案事業「茶屋町の干拓史跡・真如庵庭園の自然観察公園への改修とその活用」の一環で、真如庵にビオトープの整備を実施する	終了	H26年度事業終了					市民活動推進課 環境政策課	-	-	-	協働団体「茶屋町エコライフ・グループ」
	本庁壁泉池維持管理	ビオトープとして整備した壁泉池の維持管理を行う	継続	維持管理	維持管理	維持管理	→	→	総務課	0	0	0	
市全域	造林事業	森林資源の培養と自然環境の保全を図るため、苗木相当額を補助し植林を推進する	継続	要望がなかったため未実施	要望に応じ、苗木相当額を補助し、植林を実施する	継続実施	→	→	農林水産課	66	0	77	
	松くい虫予防事業	松くい虫被害対策のため、薬剤散布による予防と被害木の伐採駆除	継続	松くい虫予防事業、松くい虫被害木伐倒事業を行った	松くい虫予防事業、松くい虫被害木伐倒事業を行う	継続実施	→	→	農林水産課	12,477	9,558	13,220	

◆分野別目標3: 地域ごとの自然環境の保全

【基本方針】

それぞれの地域の自然特性を活かしながら保全していくことが重要なため、地域住民の協力のもと、地域の特性に応じた取り組みを推進します。

◆実施事業一覧表【基本目標2-3 地域ごとの自然環境の保全】

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
森・山	倉敷地域の取り組み	酒津八幡山周辺を、山と河が一体となった緑豊かな景観と、多様な生態系が残る自然の宝庫として保全する	継続	市民団体との協働により、保全及び利活用について調査・検討を進めた	市民団体との協働により、保全及び利活用について調査・検討を進める	継続実施	→	→	環境政策課 各担当課	-	-	-	
	水島地域の取り組み	大平山、種松山、鴨ヶ辻山などの山系の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る	継続	開発指導を通じ、自然環境を保全するとともに、市が設置した探鳥コース、野草園など自然とふれあえる場の活用を図った	開発指導を通じ、自然環境を保全するとともに、市が設置した探鳥コース、野草園など自然とふれあえる場の活用を図る	継続実施	→	→	環境政策課 各担当課	424	424	484	
	児島地域の取り組み	由加山系の貴重な動植物を保護するとともに、山系全体を保全する	継続	市民団体等との協働により、保全及び自然とふれあえる場の活用を図った	市民団体等との協働により、保全及び自然とふれあえる場の活用を図る	継続実施	→	→	環境政策課 少年自然の家	0	0	0	
河川・水辺	水島地域の取り組み	八間川を、市民が憩える水辺空間として整備を推進する	継続	花苗5000株を年3回植栽した	花苗5000株を年3回植栽する	継続実施	→	→	公園緑地課	250	250	250	
	玉島地域の取り組み	溜川遊水池周辺の自然生態環境を保全・活用するとともに、市民が自然とふれあえる公園として溜川公園を維持管理する	継続	自然生態環境に配慮し維持管理を行った	自然生態環境に配慮し維持管理を行う	継続実施	→	→	玉島・建設課 公園緑地課	489	489	489	
	船穂・真備地域の取り組み	川辺ふるさとビオトープや真備水辺の楽校、希少生物の理解や水生生物とのふれあいの場として活用を図る	継続	身近な自然とふれあえる場として維持管理を進めた	身近な自然とふれあえる場として維持管理を進める	継続実施	→	→	環境政策課 各担当課	-	-	-	
		清流に恵まれた高梁川、小田川とその周辺の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る	継続	国、県の整備事業等において、自然環境の保全を働きかけるとともに、水辺教室等を通じて自然とふれあえる場としての活用を図った	国、県の整備事業等において、自然環境の保全を働きかけるとともに、水辺教室等を通じて自然とふれあえる場としての活用を図る	継続実施	→	→	環境政策課 各担当課	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(4)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
	児島地域の 取り組み	唐琴地区や、下津井地区の砂浜、干潟、磯などの自然海岸を保全し、藻場の回復を図るため、国、県へ積極的に働きかける	継続	砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全、藻場の回復を図るため、国、県へ積極的に働きかけるとともに、海辺教室等を通じて、市民への保全意識の啓発を図った	砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全、藻場の回復を図るため、国、県へ積極的に働きかけるとともに、海辺教室等を通じて、市民への保全意識の啓発を図る	継続実施	→		環境政策課 各担当課	-	-	-	
		鷲羽山展望台周辺整備基本計画及び名勝下津井鷲羽山保存管理計画に基づき、鷲羽山の良好な自然景観を維持保全するとともに、整備活用する。	継続	・樹木の伐採	樹木の伐採を行う	継続実施	→		観光課	990	990	1,900	
	玉島地域の 取り組み	高梁川河口の干潟や、玉島黒崎地区の砂浜、干潟、磯などの自然海岸の保全を図るため国、県へ積極的に働きかける	継続	砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全を図るため国、県への積極的な働きかけ及び市民団体の支援等を通じて、市民への保全意識の啓発を図った	砂浜、干潟、磯など自然海岸の保全を図るため国、県への積極的な働きかけ及び市民団体の支援等を通じて、市民への保全意識の啓発を図る	継続実施	→		環境政策課 各担当課	-	-	-	
市街地	倉敷地域の 取り組み	鶴形山、向山、足高山など市街地の中の身近な自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る	継続	公園、道路等適切に維持管理することにより自然環境を保全し、探鳥コース等を利用して自然とふれあえる場としての活用を図った	公園、道路等適切に維持管理することにより自然環境を保全し、探鳥コース等を利用して自然とふれあえる場としての活用を図る	継続実施	→		環境政策課 各担当課	-	-	-	

◆分野別目標4:重要地区の保全

【基本方針】

生態系ネットワークの構成上重要であり、豊かな生き物の生息地、生育地となっている地域について積極的に保全します。

◆実施事業一覧表【基本目標2-4 重要地区の保全】

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
重要地区の保全	アマモ場の保全・再生事業	アマモ場保全・再生事業を推進する	リーディングプロジェクト	市民団体等の取り組みを情報提供、広報等により支援した	市民団体等の取り組みを情報提供、広報等により支援する	継続実施	→		環境政策課	-	-	-	
	生物多様性に配慮した里地・里山整備	里地里山の持続的 management のための社会的枠組みや活用方策等について検討し、生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援する		環境保全型農業直接支援対策などにより生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援した	耕作放棄地対策や環境保全型農業直接支援対策などにより生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援する	継続実施	→		農林水産課 環境政策課	2,930	0	3,000	
	ため池保全計画の策定	ため池の生物多様性保全機能に着目し、国が進める農地・水・環境保全向上対策事業の利用、推進を図る		ストックマネジメント事業等の推進にあわせ、必要に応じ環境保全向上対策を推進した	ストックマネジメント事業等の推進にあわせ、必要に応じ環境保全向上対策を推進する	継続実施	→		環境政策課 担当事業課	-	-	-	
	湿地復元、保護活動への支援	湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する		必要に応じ自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援した	必要に応じ自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する	継続実施	→		環境政策課	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(5)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
重要地区の保全 市全域	良好な自然環境が残る区域を保全する「地区指定」の実施	良好な自然環境が残る地域で、まず公有地を中心に指定に向け関係者との協議を行う	継続	候補になるような地域の指定場所の検討を行った	候補になるような地域の指定場所の検討を行なう	継続実施			環境政策課	-	-	-	
	自然公園区域、県自然環境保全地域等の区域の拡大や、新たな指定への協力	良好な自然環境が残る地域で、まず公有地を中心に指定に向け土地所有者及び関係市民との協議を行い、協力が得られた区域について、国、県に積極的に働きかける	継続	指定に適した地区の調査・検討を行った	指定に適した地区の調査・検討を行う	継続実施			環境政策課	-	-	-	

◆分野別目標5:希少野生生物の生息・生育環境の保全

【基本方針】

天然記念物や種の保存法該当種、国や県のレッドデータブック対象種について、保護の重要性に関する普及啓発を進めるとともに生息地の保全・再生を含む保護活動を推進します。

◆実施事業一覧表【基本目標2-5 希少野生生物の生息・生育環境の保全】

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
河川・水辺	希少動植物の生息情報整備	希少野生動植物の生息情報マップを整備し、生態系に配慮した管理を推進する	リーディングプロジェクト	希少野生動植物の生息情報マップの構築に向け随時調査を行った	希少野生動植物の生息情報マップの構築に向け随時調査を行う	継続実施			環境政策課 耕地水路課	-	-	-	
	希少動植物の保全	各課連携により淡水魚・希少動物の積極的保全に取り組む		希少野生生物の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた	希少野生生物の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努める	継続実施			環境政策課	-	-	-	
市全域	海浜や干潟における希少生物の保全	海浜利用者に配慮し、保全が必要な海浜植物について困いを設置するなどの保全を行う		必要に応じ保護対策を実施した	必要に応じ保護対策を実施する	継続実施			環境政策課	-	-	-	
	希少野生動植物の保全	早急な対策が求められる希少な動植物種について優先的に保護対策を講じ、種の絶滅を回避する		必要に応じ保護対策を実施した	必要に応じ保護対策を実施する	継続実施			環境政策課 各担当課	-	-	-	
森・山	シラガブドウの保護	愛宕山森林公園内および堆肥化施設敷地内に、シラガブドウの保護地を設け、保護及び啓発を行う	継続	保護育成(ふなおワイナリーの経費により管理を行った)	保護育成(ふなおワイナリーの経費により管理を行う)	継続実施			船穂・産業係	0	0	0	
河川・水辺	ミズアオイ群生地整備事業	ミズアオイの良好な生育環境を創造するため、自生地の整備を行う	継続	冬季に耕耘等により自生地の環境整備を行った	冬季に耕耘等により自生地の環境整備を行う	継続実施			土木課	365	357	358	
	ミズアオイ群生地の保全活動	自然保護団体、地域住民等と協力し、ミズアオイ群生地の良好な生育環境の保全に努める	継続	ヌートリア食害防護フェンスの設置など、ミズアオイ自生地の整備・管理に協力した。市民に対して観察会等の啓発活動を行った(春:種まき会 秋:観察会)	ミズアオイ自生地の整備・管理に協力する 市民に対して観察会等の啓発活動を行う	継続実施			環境政策課	73	25	73	
	希少野生生物に配慮した公共工事の実施要請	スイゲンゼニタナゴ・カワバタモロコやダルマガエルなど希少野生生物が生息・生育する場所での水路改修・街路事業などの公共工事では、専門家等との協議や地域住民の理解を求め、希少野生生物の生息・生育環境への影響が最も少ない方法を検討し、調整を図る	継続	希少野生生物の生息の可能性のある地域の公共工事を把握し、必要に応じて環境省や専門家と協力して、配慮工事を要請した(調査・協議・対策13回実施)	希少野生生物の生息の可能性のある地域の公共工事を把握し、必要に応じて環境省や専門家と協力して、配慮工事を要請する	継続実施			環境政策課	107	102	606	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(6)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

ハビタット	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
希少野生生物の生息・生育環境の保全 河川・水辺	希少野生生物に配慮した公共工事の実施	スイゲンゼニタナゴなどの希少野生生物(淡水魚)の生息・生育環境に配慮した公共工事の実施に努める	継続	スイゲンゼニタナゴなどの希少野生生物(淡水魚)の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた	スイゲンゼニタナゴなどの希少野生生物(淡水魚)の生息・生育区域においては、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努める	適宜実施	→		担当工事業課	0	0	0	
			継続	東三間川水路改修工事(その1) 西部排水路改修工事	東三間川水路改修工事 L=80.0m, W=3.8m	継続実施 継続実施	→		水島支所・産業	5,350 8,000	4,698 8,392	6,000 -	【再掲】基本目標2-2 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施
			終了	水島6号水路改修工事 L=73.18m(平成26年度事業終了)					水島支所・産業	-	-	-	【再掲】基本目標2-2 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施
			継続	鶴新田17号水路改修工事	鶴新田17号水路改修工事 L=29.0m	継続実施	→		水島支所・産業	4,000	3,521	4,000	【再掲】基本目標2-2 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施
			継続	帯江162号水路改修工事 ほか4件	帯江256号水路改修工事 ほか6件	水路改修工事10件程度	水路改修工事10件程度	水路改修工事10件程度	耕地水路課	57,000	42,701	47,000	【再掲】基本目標2-2 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施
	継続	ダルマガエル・カスミサンショウウオなどの希少野生生物(両生類等)の生息・生育環境に配慮した公共工事の実施に努める	希少野生生物(両生類等)の存在が確認された場合は、生息・生育環境に配慮した事業の実施に努めた	適宜実施	→		担当工事業課	-	-	-			
	スィゲンゼニタナゴ個体群の保全	自然保護団体、地域住民と協力し、スィゲンゼニタナゴの保護活動を推進する	工事実施等に伴い、保全に関する協議・保護移動を実施した(11件)	継続実施	→		環境政策課 環境学習センター	33	0	0	※ 淡水魚講座に関する予算等は【4-3】参照		
川辺ふるさとピオトープ管理	ダルマガエル公園を含む親水公園の維持管理(委託)	希少生物の生息する地域内で、都市公園内の池周辺清掃等維持管理を「真備川辺地区公園愛護会」へ委託し、環境保全を行なった	継続	継続管理	→	真備・建設課	251	251	251				

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(7)

基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

◆分野別目標6:外来生物対策

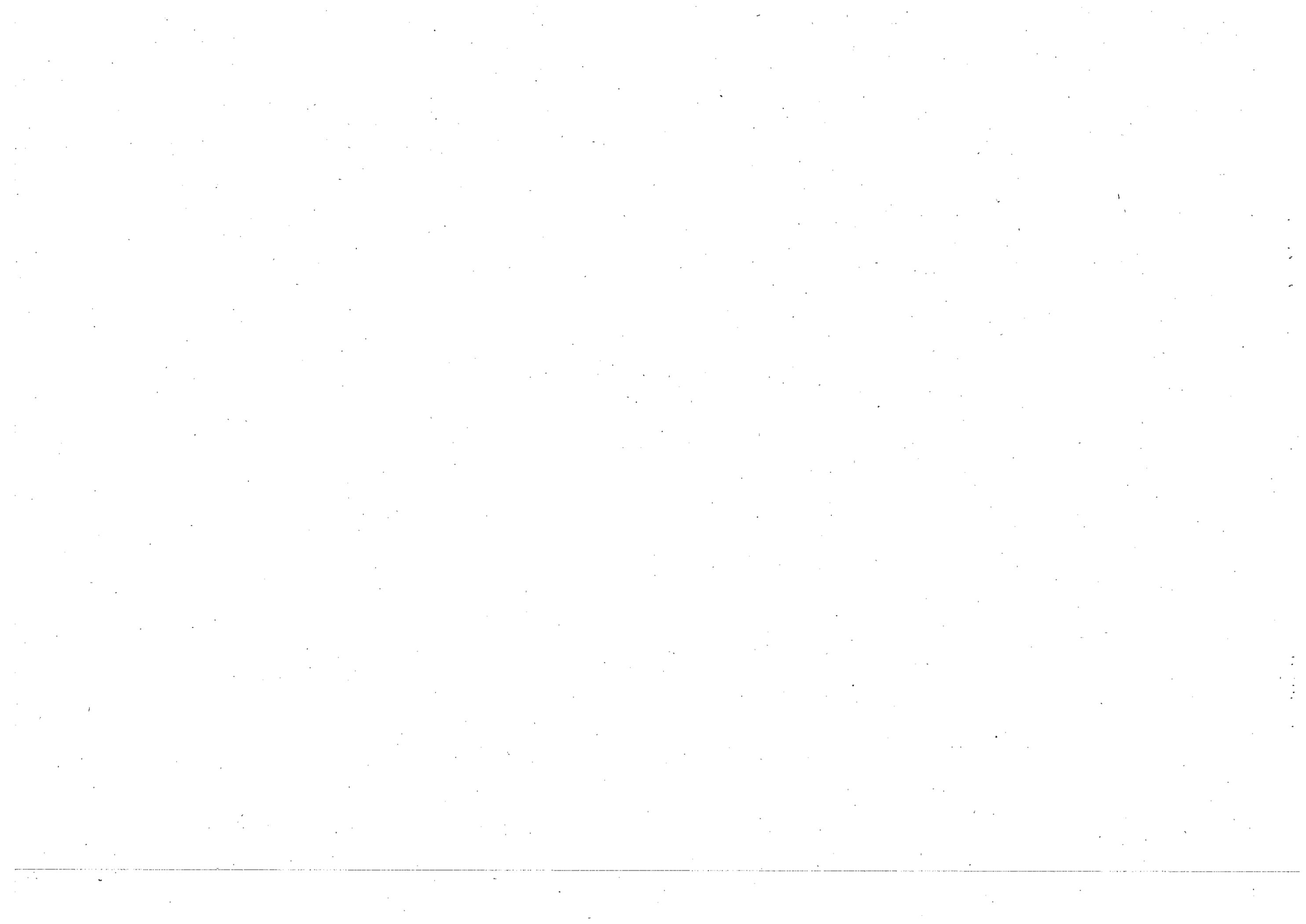
【基本方針】

国内外における輸送などに伴い、意図的、非意図的を問わず人為的に導入された外来生物による地域の生態系への影響を最小限とするため、国、県、周辺自治体、市民、事業者及びNPO団体など関係機関と連携し、外来生物に関する情報提供や正しい知識の普及に努めるとともに、必要に応じ関係法令に基づく防除を検討します。

◆実施事業一覧表【基本目標2-6 外来生物対策】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
外来種等の生態系に 悪影響を与える生物 への対応	アライグマなどの特定外来生物について防除計画を作成し駆除等の対策を実施する	リーディング プロジェクト	先行自治体の情報収集を進め、防除計画の策定を検討した	先行自治体の情報収集を進め、防除計画の策定を検討する	継続実施	→	→	環境政策課 農林水産課 環境衛生課	-	-	-	
	ペットや野生動物とのつきあい方等の市民啓発の実施をする		出前講座等の機会を利用し、啓発活動を行った	出前講座等の機会を利用し、啓発活動を行う	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
	ヌートリアやカワウなどについて、苦情や捕獲などの情報をもとに獣害分布図を作成し、関係部署との情報の共有を図る		出前講座等の機会を利用し、啓発活動を行った	チラシや出前講座等の機会を利用し、啓発活動を行う	継続実施	→	→	生活衛生課	-	-	-	
	関係機関の情報共有を進め、分布の把握に努めた		関係機関の情報共有を進め、分布の把握に努める	継続実施	→	→	環境政策課 農林水産課 環境衛生課	-	-	-		
外来生物に関する啓 発と情報提供	外来生物の移入などによる生態系への影響を最小限とするため、環境省など関係機関と連携し、外来生物に関する情報提供や正しい知識の普及啓発を行う	継続	出前講座、観察会、博物館講座などで機会あるごとに問題の普及啓発に努めた(講座回数25回、出前講座25回)	新たに発見された外来生物について記者クラブへの発表及び学術雑誌での報告を行う 出前講座、観察会、博物館講座などで機会あるごとに問題の普及啓発に努める	継続実施	→	→	自然史博物館	0	0	0	
		継続	施設見学受入・出前講座等の機会を利用し、外来生物に関する啓発活動を行った	施設見学受入・出前講座等の機会を利用し、外来生物に関する啓発活動を行う。必要に応じ駆除対策の計画、実施を行う	継続実施	→	→	環境政策課 環境学習センター	8,600	8,444	7,874	
		継続	市民からの問い合わせに対し、関係機関と連携して対応した。市内に生息するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除啓発を広報くらしきなどで行った	市民からの問い合わせに対し、関係機関と連携して対応する 市内に生息するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除啓発を広報くらしきなどで行う	継続実施	→	→	自然史博物館 環境政策課 農林水産課	-	-	-	
外来生物への対策の 計画策定と防除の実 施	必要に応じ、防除計画の策定、防除実施を進める	継続	これまで収集した情報及び調査結果を踏まえ、防除対策について検討した	これまで収集した情報及び調査結果を踏まえ、必要に応じ防除対策の計画、実施を行う	継続実施	→	→	環境政策課 農林水産課	-	-	-	鳥獣被害防止計画など

外来生物対策



倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標3 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

◆分野別目標1:環境配慮型農業と地産地消の推進

【基本方針】

おかやま有機JASなどの有機農業や冬期湛水管理など生き物を育む環境保全効果の高い営農活動を支援、推進するとともに担い手の育成など農業の持続的な発展と地域の活性化を図ります。

◆実施事業一覧表【基本目標3-1 環境配慮型農業と地産地消の推進】

環境配慮型農業と地産地消の推進	計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
	生物多様性に配慮した農業の推進	冬水田んぼ、休耕田の利活用による田んぼづくりを推進する 農地を活用した環境学習を推進する 生物多様性と安全に配慮した農林水産物のPR、地産地消及び旬産旬消の推進をする 生物多様性(環境)保全型農業のPR、農業者や消費者の理解の促進を図る	リーディングプロジェクト	新規	要望がなかったため未実施	耕作放棄地解消推進事業等を活用した支援により、耕作放棄地の再生・利用を推進する	継続実施	→	→	農林水産課	0	0	0
継続				環境保全型農業直接支援対策等を通じ環境配慮型農業を推進することにより、農業者が実施する環境学習を支援した	継続して実施する	継続実施	→	→	農林水産課	-	-	-	
継続				夏休み講座として、「田んぼの生きもの調べ」を実施 ・8月20日(日)実施 30人参加	夏休み講座として、「田んぼの生きもの調べ」を実施 ・8月19日(日)実施	継続実施	→	→	環境学習センター	-	-	-	
継続				地場農産物や特産物の消費拡大を図る各種イベントや啓発講座の開催、PR活動などを行った	継続して実施する	継続実施	→	→	農林水産課	1,794	1,318	1,262	
継続				パンフレットの配布等を通じ環境保全型農業の普及促進を図った	継続して実施する	継続実施	→	→	農林水産課	-	-	-	
継続				出前講座等を通じて生物多様性(環境)保全型農業のPR、農業者や消費者の理解の促進を図った	出前講座等を通じて生物多様性(環境)保全型農業のPR、農業者や消費者の理解の促進を図る	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
環境保全型農業の支援	おかやま有機JASなどの有機農業や冬期湛水管理など生き物を育む環境保全効果の高い営農活動を支援する	継続	環境保全型農業直接支援対策により環境保全効果の高い営農活動を支援した	継続して実施する	継続実施	→	→	農林水産課	4,000	3,056	4,000	【再掲】2-4 生態系に里地里山に配慮した里地里山の整備	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

基本目標3 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

◆分野別目標2:生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進

【基本方針】

開発行為を行う場合、生態系とその基盤となる生物に関する情報を事前に把握し、配慮した予防的、順応的な対策などの取り組みを進めます。

事業活動における環境負荷の低い原材料の使用や生態系認証商品や材料の活用、供給などサプライチェーン全体の中で持続可能な生産と消費に配慮した経営を促していきます。

◆実施事業一覧表【基本目標3-2 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
生物多様性に配慮した事業の実施	生物多様性に配慮した開発事業の実施のための指導を行う	リーディング プロジェクト	生物多様性に配慮した開発事業の実施のための指導を行った(3件)	生物多様性に配慮した開発事業の実施のための指導を行う	継続実施	→	→	環境政策課 開発指導課	-	-	-	
	まとまりのある緑地等を開発事業や都市づくりに取り入れ、生き物の生育・生息環境に貢献する		該当事業がなかったため未実施	まとまりのある緑地等を開発事業や都市づくりに取り入れ、生き物の生育・生息環境に貢献する	継続実施	→	→	市街地開発課	-	-	-	
	自然環境や生態系に配慮した技術開発・施工方法による生物多様性保全への取り組みを推進する		工事個所の自然環境や生態系に配慮した対応を検討した	工事個所の自然環境や生態系に配慮し、必要に応じ対応する	継続実施	→	→	土木課 街路課	-	-	-	
	産業界に係る職員や企業を対象とした研修を行い、企業活動や商品、サービスが生態系に依存していることを意識し、環境に配慮した活動を推進する		出前講座等を通じて、サービスが生態系に依存していることを意識し、環境に配慮した活動を推進した	出前講座等を通じて、サービスが生態系に依存していることを意識し、環境に配慮した活動を推進する	継続実施	→	→	各担当課 環境政策課	-	-	-	
	生物多様性に欠かせない水と命の係わりについて意識し、下水道の整備等により、生態系の回復を図る		下水道の整備及び普及促進	下水普及率を向上させ、水質の向上を図る	継続実施	→	→	下水建設課 下水施設課	0	0	0	
くらしき地域資源の活用	地域資源を、老舗、特産品、魅どころとして取りまとめ、情報発信をする		くらしき地域資源を取りまとめ、ホームページやBOOK等を通じて情報提供を行った	くらしき地域資源を取りまとめ、ホームページやBOOK等を通じて情報提供を行う	継続実施	→	→	商工課	10,042	9,423	7,430	
市民参画による生物多様性に配慮した公園づくり	市民参画による生物多様性に配慮した公園づくりを推進する		市民の意見をとりいれた公園づくりを推進した	市民の意見をとりいれた公園づくりを推進する	継続実施	→	→	公園緑地課	0	0	0	
小田川付替え事業との連携	高梁川小田川付替え事業及び関連する事業について国、県と連携を図り、生物多様性の保全を推進する		高梁川小田川付替え事業及び関連する事業について事業の進捗にあわせ必要に応じ国、県と連携を図り、生物多様性の保全を推進した	高梁川小田川付替え事業及び関連する事業について事業の進捗にあわせ必要に応じ国、県と連携を図り、生物多様性の保全を推進する	継続実施	→	→	環境政策課 土木課 自然史博物館 文化財保護課 各担当課	-	-	-	
八間川緑道公園整備	地元住民、関係機関等との協議の検討	終了	八間川東側に緑地を整備	事業終了				水島・建設	-	-	-	
土石採取の掌握・指導	土石採取の掌握・指導	継続	土石採取の掌握・指導	土石採取の掌握・指導	継続実施	→	→	開発指導課	-	-	-	
土砂等による土地の埋め立て許可	土砂等による土地の埋め立て許可	継続	土砂等による土地の埋め立て許可	土砂等による土地の埋め立て許可	継続実施	→	→	開発指導課	-	-	-	
宅地造成許可	宅地造成に係る許可	継続	宅地造成に係る許可	宅地造成に係る許可	継続実施	→	→	開発指導課	-	-	-	
開発行為等の規制及び指導	開発行為等の規制及び指導	継続	開発行為等の規制及び指導	開発行為等の規制及び指導	継続実施	→	→	開発指導課	-	-	-	
開発行為等の事前協議	事業内容により自然環境調査を行い自然の回復に努めるよう指導	継続	希少野生生物等への影響が考えられる2件について保全対策を指導した	開発行為等の規制及び指導	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
保健保安林管理事業	三百山・大向山保健保安林管理委託	継続	業者に管理委託して施設を保全した	業者に管理委託して施設を保全する	継続実施	→	→	児島・産業課	3,206	3,206	3,249	

生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

◆分野別目標1:市民への環境学習機会の提供

【基本方針】

自然環境保全に対する市民の意識を高めるため、関係部署が連携するとともに、NPO等との協働を積極的に進め、講演会、講座、自然体験型イベントを実施します。

◆実施事業一覧表【基本目標4-1 市民への環境学習機会の提供】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
生物多様性体験 学習拠点の設置	自然史博物館、環境学習センター を中心に、教育施設と連携した自然 基礎情報の収集や、研修ニーズ の調査を行う		倉敷みらい公園において生き 物調査を実施した(11回)	倉敷みらい公園において生き 物調査を実施する	継続実施	→		自然史博物館 環境学習センター	0	0	0	みらい公園バード ウォッチング
保全に向けた普 及啓発活動	シンポジウムや講演会、パネル掲 示等による生物多様性保全に向け た普及啓発活動をする	リーディング プロジェクト	くらしき環境フェスティバルにお いて生物多様性の保全につな がる地域の食に関する講演会 を実施した	くらしき環境フェスティバルにお いて生物多様性の保全につな がるエシカルファッションに関 する講演会を実施した	継続実施	→		環境政策課 環境学習センター	500	500	500	環境フェスティバル (4-6 環境保全に関 する事業の情報提 供)のプログラムとし て実施
関連施設等との連 帯	文部科学省及び県教育事務所関連 施設の事業に参加	終了	自然観察会を岡山県生涯学習 センターとの連携講座として 行った(博物館主催16回、友の 会主催10回)(H28年度で事業 終了)					自然史博物館	-	-	-	
	環境省及び県環境関連部門の事業 に参加	継続	総合環境学習ゾーンモデル事 業(環境省)へ参加し、配当物 品の利用に便宜を図った(0件)	総合環境学習ゾーンモデル事 業(環境省)へ参加し、配当物 品の利用に便宜を図る	継続実施	→		自然史博物館	0	0	0	
		継続	総合環境学習ゾーンモデル事 業(環境省)へ参加し、配当物 品の利用促進を図った	総合環境学習ゾーンモデル事 業(環境省)へ参加し、配当物 品の利用促進を図る	継続実施	→		環境学習センター	0	0	0	
「11月3日は自然 史博物館まつり」 の開催	博物館友の会の協力を得て、全館で さまざまなイベントを開催する 終日入館無料	継続	第17回「11月3日は自然史博物 館まつり」を開催した(来場総数 8,395人)	第18回「11月3日は自然史博物 館まつり」を開催する	継続実施	→		自然史博物館	507	506	473	予算・実績は自然史 博物館まつり事業
環境学習センター での環境学習・講 座等の充実を図る	環境学習センターでの環境学習・講 座等の充実を図る	継続	環境学習・講座等の充実を図っ た	環境学習・講座等の充実を図 る	継続実施	→		環境学習センター	8,600	8,444	7,874	
緑化ポスターコン クールの実施	緑化ポスターコンクールの実施	継続	緑化ポスターコンクールの実施	緑化ポスターコンクールの実 施	継続実施	→		公園緑地課	140	140	140	
自然史全般の質 問・問合せなどへ の対応	自然史全般についての質問などに、 学芸員が個別に回答する	継続	対面・メール等で対応した(レ ファレンス総数964件)	対面・メール等で対応する	継続実施	→		自然史博物館	0	0	0	
自然保護小冊子 の発刊等	自然の紹介や自然保護に関する小 冊子などの発行、市民事業への協 力	継続	研究報告第33号を発行した	研究報告第34号、特別展図録 を発行する	継続実施	→		自然史博物館	617	572	1,614	
	自然の紹介や自然保護に関する小 冊子などを活用した啓発を図る	継続	自然保護団体等と協力して、淡 水魚に関する出前講座を実施 する。(H29:申し込みなし)	淡水魚を中心とした水環境に 関する小・中学生対象の出前 講座を実施する	継続実施	→		環境学習センター	33	0	0	
くらしき都市緑化 フェアの開催	都市緑化フェアの開催	継続	都市緑化フェアの開催	都市緑化フェアの開催	継続実施	→		公園緑地課	1,650	1,650	1,650	
少年自然の家 受入事業	小、中学校の山の学習などの受入 れとともに、生涯学習施設としての位 置づけにより幅広い年代の研修団体 の受け入れを実施する	継続	自然の中で仲間と遊び、自然と 親しみながら仲間と暮らすこと によって、人間形成を図った(テ ント設営、野外炊事等)	自然の中で仲間と一緒に共同 生活をするによって自主性 や協調性を養うとともに、自然 の大切さや雄大さを体感する ことによって環境保護の意識 醸成を図る	継続実施	→		少年自然の家	57,239	55,730	66,101	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
自然環境保全に関する研修会、講演会	有識者を講師に研修会、講演会、サイエンス・カフェなど開催する	継続	水島学講座を開催した(1回)	環境学習講座を開催する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-	
		継続	くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながる地域の食に関する講演会を実施した	くらしき環境フェスティバルにおいて生物多様性の保全につながるエンカルフアッションに関する講演会を実施した	継続実施	→		環境政策課	500	500	500	【再掲】同シートに掲載
自然保護監視員研修会・連絡会議	知識習得のための研修会を行う自然保護に関する情報や意見を受けるための連絡会を開催する	継続	自然保護に関する情報や意見を受けるための研修会や連絡会を開催した(2回)	自然保護に関する情報や意見を受けるための研修会や連絡会を開催する	継続実施	→		環境政策課	256	206	256	【再掲】基本目標1-2「自然保護監視員制度の活用」
自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト	市民企画提案事業「自転車を活用した「くらしき百景」観光プロジェクト」の一環で、倉敷を訪れる観光客に環境に配慮した観光スタイルを学習する機会を提供する	終了	H25年度事業終了					市民活動推進課	-	-	-	
「倉敷まちかど博物館」事業	平成25年度コミュニティ助成事業により、岩石・鉱物・化石・植物・昆虫・動物などの標本を、移動可能な展示ユニット計60台に仕立てて、公共性の高い施設に貸し出しする	継続	12施設に41台のユニットを新たに貸し出した	図書館・公民館・学校園など、公共性の高い施設、市民や観光客らが集う施設を対象として貸し出しを行う	継続実施	→		自然史博物館	0	0	0	

◆分野別目標2: 支援者、指導者の育成

【基本方針】

市内の自然環境情報を幅広く収集するとともに市民に数多くの環境学習機会を提供するため、関係部署が連携するとともに、NPO等との協働を積極的に進め、専門的な知識を持つ指導者や市民団体の育成と支援に努めます。

◆実施事業一覧表【基本目標4-2 支援者、指導者の育成】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
生物多様性に関する環境学習システムの推進	保育士や教諭等を対象とした研修を行い、子どもたちが地球に優しい取り組みを実践することにつなげる	リーディングプロジェクト	研修の方法・内容等の検討について教員研修を所管する教育センターに依頼	研修の方法、時期、対象等を検討中	研修の実施	→		教委・指導課	0	0	0	
指導者養成講座の開催	高梁川流域における生物多様性保全をテーマとする環境教育研修を行う	継続	環境学習人材育成研修の実施(H29は実施せず)	人材育成研修を実施する	継続実施	→		環境学習センター	300	0	300	
自然環境保全マニュアル研修会	市新規採用土木職員などを対象に研修会を実施	継続	本研修を未受講の土木職員を対象に研修会を実施する	本研修を未受講の土木職員を対象に研修会を実施する	継続実施	→		環境政策課	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

◆分野別目標3:子どもたちへの環境教育の充実

【基本方針】

自然や生きものに対する子どもたちの関心と環境保全意識を高めるため、学校や地域における自然体験活動への参加の機会を増やします。

◆実施事業一覧表【基本目標4-3 子どもたちへの環境教育の充実】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考	
子どもたちへの環境教育の充実	生物多様性に関する環境学習システムの検討	リーディングプロジェクト	パンフレットの授業への活用について検討した	環境政策課作成のパンフレットを授業に活用するよう呼びかける	継続実施	→		指導課	-	-	-		
			生物多様性地域戦略に関する子供向けパンフレットを配布した	啓発推進及びその方法の検討を行う	継続実施	→		環境政策課	0	0	0	一般向けパンフ、地域戦略冊子含む	
	ビオトープの設置および推進		学校・保育所等にビオトープの設置を推進及び支援する	必要に応じ設置および管理に関する支援を行った	必要に応じ設置および管理に関する支援を行う	継続実施	→		環境政策課 教育施設課	0	0	0	
	自然とふれあうイベント等の開催		子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや、自然とふれあう活動を支援する	自然体験型の講座を43件実施 704人が参加した	子どもたちや親子で参加する自然体験講座・イベントや、自然とふれあう活動を支援する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-	環境学習推進事業として実施
				障がい児などを対象としたキャンプを、少年自然の家で3回実施する	障がい児などを対象にしたキャンプを、少年自然の家で開催する	継続実施	→		障がい福祉課	287	138	287	
			子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援した	子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援する	継続実施	→		子育て支援課	-	-	-		
子どもたちへの環境教育の充実	環境学習の充実	継続	出前講座を開催した(25件)	出前講座を開催する	継続実施	→		自然史博物館	-	-	-		
		継続	出前講座を開催した(13回)	出前講座を開催する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-	環境学習推進事業として実施	
		継続	自然保護団体等と協力して、淡水魚に関する出前講座を実施(H29:申し込みなし)	自然保護団体等と協力して、啓発活動を行う 淡水魚を中心とした水環境に関する小・中学生対象の出前講座を実施する	継続実施	→		環境学習センター	33	0	0		
		継続	公民館、図書館講座及び学校、保育園などの施設へ講師の派遣を行う	講師派遣に協力した(出前講座以外の講師派遣22件)	講師派遣に協力する	継続実施	→	自然史博物館	-	-	-		
		継続	講師派遣に協力する(派遣実績なし)	講師派遣に協力する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-		
	環境学習講座の開催	継続	夏休み期間を中心に小学生親子で参加できる自然体験型の学習講座を実施した(43件:704人)	夏休み期間に重点的に小学生親子で参加できる自然体験型の学習講座を実施する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-		

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
環境教育の推進	環境教育全体計画、指導計画の作成	継続	全小・中学校で、環境教育全体計画、指導計画に基づき、教科や総合的な学習の時間を中心に環境教育に取り組んだ	全小・中学校で、環境教育全体計画、指導計画に基づき、教科や総合的な学習の時間を中心に環境教育に取り組む	継続実施	→	→	教委・指導課	0	0	0	
水辺教室	高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・水辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月30日(日) 37人参加 ・高梁川河川敷	水辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月28日(土) ・高梁川河川敷	継続実施	→	→	環境学習センター 市民学習センター	81	75	106	【再掲】1-2水辺教室
海辺教室	磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・海辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) 7月2日(日) 28人参加 ・児島通生海岸	・海辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月22日(日) ・児島通生海岸	継続実施	→	→	環境学習センター 市民学習センター	82	59	82	【再掲】1-2 海辺教室
自然教室(中学校)	遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する	継続	自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各中学校の第1学年の参加で実施した	自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各中学校の第1学年の参加で実施する	継続実施	→	→	教委・指導課	0	0	0	
山の学習(小学校)	自然の中で暮らし、自然に触れ、自然についての知識を得る	継続	自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各小学校の第4学年または、第6学年の参加で実施した	自然の中で暮らし、自然に触れ、自然について知ることをねらいとし、各小学校の第4学年または、第6学年の参加で実施する	継続実施	→	→	教委・指導課	0	0	0	
親子漁業体験学習	漁業体験を通して、瀬戸内の恵みを再発見する	継続	市内小学生の親子を対象に、「漁業」や「地産地消」、また地域の栄養委員による「食育」活動について、理解を深めていただく。さらには、瀬戸内海の恵みに対する再発見と感動を親子で共有することにより、水産業について理解促進の契機とする	底びき網などを体験し、瀬戸内の恵みの再発見することをねらいとし、親子漁業体験学習を実施する	継続実施	→	→	農林水産課	2,587	1,809	1,124	H29は50周年事業として実施
科学講座	科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、サイエンス塾等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにする	継続	科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、科学チャレンジ教室等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにした	科学実験教室、科学工作教室、親子科学教室、科学チャレンジ教室等の各種科学講座の実施を通して、自然への理解を深めるとともに、環境保護という視点で自分たちの生活を見直すことができるようにする	継続実施	→	→	科学センター	250	210	230	
少年自然の家 主催事業	自然体験学習の実施 ・「由加わいわいキャンプ」(テント設営・そうめん流し) ・「夏休み子どもキャンプ」(丸太小屋生活・野外炊事) ・「家族で秋の思い出づくり」(ハイキング・芋ほり) ・「冬季子どもキャンプ」(丸太小屋生活・野外炊事) ・「早春のつどい」(よもぎ採り・餅つき) ・「さわやかデー(由加山の旅)」(そうめん流し・野外炊事)	継続	由加わいわいキャンプなど(テント設営、そうめん流し)を実施した 「由加わいわいキャンプ」(99人) 「夏休み子どもキャンプ」(51人) 「さわやかデー(由加山の旅)」(22人) 「家族で秋の思い出づくり」(65人) 「ウインターフェスティバル」(84人) 「冬季子どもキャンプ」(40人) 「自然の家大感謝祭」(150人) 「早春のつどい」(51人)	由加わいわいキャンプの実施や、不登校児等を対象とした市民生涯学習課企画事業(さわやかデー)への共同企画等を予定	継続実施	→	→	少年自然の家	-	-	-	

子どもたちへの環境教育の充実

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(3)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

◆分野別目標4: 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援

【基本方針】

市民やNPO等市民団体、事業者が、地域の生物多様性保全のため実施する環境美化活動など社会貢献活動や、高梁川流域の恵みを使った経済活動等を支援します。

◆実施事業一覧表【基本目標4-4 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援	生物多様性に配慮した里地・里山整備	リーディングプロジェクト	環境保全型農業直接支援対策により生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援した	耕作放棄地対策や環境保全型農業直接支援対策などにより生物多様性に配慮した里地・里山整備を支援する	継続実施	→	→	農林水産課	6,930	3,056	7,000	【再掲】2-4 生態系に里地里山に配慮した里地里山の整備
			先進事例等情報収集を行った	先進事例等情報収集を行う	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
			地域交流イベント、経済活動を支援した	地域交流イベント、経済活動を支援する	継続実施	→	→	環境政策課	-	-	-	
自然共生圏を意識した地域交流、経済活動の支援	高梁川流域など本市が関わる自然共生圏を対象とした地域交流イベント、経済活動を支援する	継続	清掃で出た土砂・草などを直営・業者委託で回収 市内全域で実施した	清掃で出た土砂・草などを直営・業者委託で回収 市内全域で実施	継続実施	→	→	環境衛生課	34,075	30,203	34,708	
河川等のゴミの清掃	生活雑排水路の春秋地区清掃	継続	児島湖流域清掃大作戦を開催した	児島湖流域清掃大作戦を開催する	継続実施	→	→	環境政策課	548	519	578	平成30年11月4日(日)に開催予定
	高梁川流域クリーン一斉行動の支援	継続	高梁川流域クリーン一斉行動を支援した 参加者: 4,832人, 収集量: 15.85t	高梁川流域クリーン一斉行動を支援する	継続実施	→	→	教委・生涯学習課	203	142	206	平成30年11月25日(日)に開催予定
自然保護団体への活動支援	各種自然保護団体への活動を支援する	継続	補助金、情報提供などにより市内の自然保護団体の活動を支援した	補助金、情報提供などにより市内の自然保護団体の活動を支援する	継続実施	→	→	環境政策課	180	180	180	倉敷の自然をまもる会

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(4)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

◆分野別目標5:エコツーリズム等の推進

【基本方針】

農業農村地域や漁村地域、離島地域などにおいて地域資源を活かした体験型ツーリズムなどを推進します。

◆実施事業一覧表【基本目標4-5 エコツーリズム等の推進】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考	
生物多様性エコツアーの 推進	本市の進める生態系ネットワークの 取り組みをはじめ、経済的に循環し ている市内外の優良な企業の取り組 みの現場等を巡るツアーの実施及び 市民団体等による実施を支援する	リーディング プロジェクト	高梁川流域における生物多様 性エコツアーの実施を支援した	高梁川流域における生物多様 性エコツアーの実施を支援す る	継続実施	→		環境政策課	584	515	540		
		終了	H26年度事業終了						市民活動推進課 環境政策課	-	-	-	【再掲】2-2「茶屋町 の干拓史跡・真如庵 庭園の自然観察公園 への改修とその活用」 事業
		リーディング プロジェクト	市民団体による提案がなく未実 施	市民団体より提案があった場 合積極的に支援する	継続実施	→			観光課	-	-	-	
エコツーリズム支援	市民団体の開催するエコツーリズ ムを支援する	継続	高梁川流域における生物多様 性エコツアーの実施を支援した	高梁川流域における生物多様 性エコツアーの実施を支援す る	継続実施	→		環境政策課	584	515	540	【再掲】4-5「生物多 様性エコツアーの推 進」事業	
親子漁業体験学習	漁業体験を通して、瀬戸内の恵み を再発見する	継続	市内小学生の親子を対象に、 「漁業」や「地産地消」、また地 域の栄養委員による「食育」活 動について、理解を深めていた だ。さらには、瀬戸内海の恵みに対 する再発見と感動を親子で共 有することにより、水産業につ いて理解促進の契機とする	底びき網などを体験し、瀬戸内 の恵みの再発見することをね らいとし、親子漁業体験学習を 実施する	継続実施	→		農林水産課	2,587	1,809	1,124	【再掲】4-3 親子漁業 体験学習	
自然教室(中学校)	遊休農地を活用し、レクリエー ションやコミュニティの場となる よう市民農園の維持管理を行い利 用を促進する	継続	自然の中で暮らし、自然に触 れ、自然について知ることをね らいとし、各中学校の第1学年 の参加で実施した	自然の中で暮らし、自然に触 れ、自然について知ることをね らいとし、各中学校の第1学年 の参加で実施する	継続実施	→		教委・指導課	-	-	-	【再掲】4-3 自然教室 (中学校)	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(1)

基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

◆分野別目標6: 自然とのふれあいの促進

【基本方針】

市内の身近な自然を保全し、市民が気軽に参加できるような自然観察会や自然調査を開催するなど自然とふれあう場として活用します。自然とのふれあい活動の実施にあたっては、NPO等との協働を積極的に進めるとともに、市民に情報を提供し参加を呼びかけます。

◆実施事業一覧表【基本目標4-6 自然とのふれあいの促進】

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
環境保全事業、啓発活動の支援	里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等に努める		必要に応じ、自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等を行った	必要に応じ、自然保護団体の活動に対する広報支援や、環境保全意識啓発機会の提供等を行う	継続実施	→		環境政策課 環境学習センター 自然史博物館	-	-	-	
自然とのふれあい事業の開催	水辺教室、海辺教室、自然観察会、天体観察会、星空観察会などの自然とのふれあいを事業を開催する	リーディングプロジェクト	水辺教室を実施 37人参加 海辺教室を実施 28人参加	豪雨災害の影響で、水辺教室と海辺教室は中止	継続実施	→		環境学習センター 市民学習センター	81 82	75 59	106 82	【再掲】1-2 水辺教室 【再掲】1-2 海辺教室
			市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数58件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催観察会・講座総数12件)	市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催する	継続実施	→		自然史博物館	0	0	0	
			季節の天体や星座の観察を行った(12回・901人)	季節の天体や星座の観察を行う天体観望会を定期的に行う	継続実施	→		科学センター	33	0	33	
自然とのふれあいの場の活用、維持管理等	ビオトープ、探鳥コース、遊休農地の活用、種松山野草園の管理及び自然散策コースの検討などを行う	リーディングプロジェクト	探鳥コース、種松山野草園の維持管理を行うとともに必要に応じ自然散策コースの検討を行った	探鳥コース、種松山野草園の維持管理を行うとともに必要に応じ自然散策コースの検討を行う	継続実施	→		環境政策課	424	424	484	【再掲】2-2 種松山野草園管理
			野鳥観察に関する入門講座を2回実施した	野鳥観察に関する入門講座を季節に応じて実施する	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-	夏・冬の2回実施
			要望に応じて、耕作放棄地の再生を支援した	要望に応じて、耕作放棄地の再生を支援する	継続実施	→		農林水産課	2,930	0	3,000	【再掲】2-4 生態系に里地里山に配慮した里地里山の整備
			ビオトープの設定、活用等を学校に呼びかけた	ビオトープの設定、活用等を学校に呼びかける	継続実施	→		教委・指導課	-	-	-	
自然保護団体の里地、里山保全活動への支援	里地、里山の保全に向けた自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援する	継続	自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援した	自然保護団体の活動への市民参加、協働について広報を行うなど支援する	継続実施	→		環境政策課	-	-	-	
ビオトープの活用促進	NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けする	継続	NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けした	NPOなどと協力しながら、小学校、公共施設等へのビオトープの活用を手助けする	継続実施	→		環境政策課	0	0	0	
啓発機会の提供	小学校をはじめとして、市民の水辺の環境保全意識啓発に努める	継続	自然保護団体等と協力して、啓発活動を行った。淡水魚に関する出前講座は申し込みなし	淡水魚を中心とした水環境に関する小・中学生対象の出前講座を実施する	継続実施	→		環境学習センター	33	0	0	【再掲】2-5 スイゲンゼニタナゴ個体群の保全
種松山野草園管理	種松山野草園管理	継続	種松山野草園の維持管理を行った	種松山野草園の維持管理を行う	継続実施	→		環境政策課	424	424	484	【再掲】2-2 種松山野草園管理
探鳥コース、野鳥観察地の維持、活用	探鳥コースや野鳥観察地の観察しやすい環境づくりと利活用	継続	市民団体と協力し、野鳥観察会を2回実施した	市民団体等と協力し探鳥会などを開催し、活用を図る	継続実施	→		環境学習センター	0	0	0	【再掲】同シートに掲載済
			探鳥コースや野鳥観察地の観察しやすい環境づくりと維持	探鳥コースの点検を行った	探鳥コースの点検を行い、必要に応じて対応する。探鳥コースの利用促進を図る	継続実施	→		環境政策課	44	40	65

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(2)

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
市民農園事業	遊休農地を活用し、レクリエーションやコミュニティの場となるよう市民農園の維持管理を行い利用を促進する	継続	市民農園維持管理を実施した	市民農園維持管理を実施する	継続実施	→		農林水産課	6,424	6,280	4,548	
遊休農地の活用	幼・小・中学校において遊休農地を活用し体験学習を推進する	継続	小学校の第4学年又は第6学年と中学校の第1学年において遊休農地を活用し体験学習を実施した	幼・小・中学校において遊休農地を活用し体験学習を推進する	継続実施	→		教委・指導課	0	0	0	
水辺教室	高梁川河原で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・水辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月30日(日) 37人参加 ・高梁川河川敷	水辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月28日(土) ・高梁川河川敷	継続実施	→		環境学習センター 市民学習センター	81	75	106	【再掲】1-2 水辺教室
海辺教室	磯(海辺)で水生生物調査などの観察を行うと共に、結果について既存資料を含め情報提供を行う	継続	・海辺教室を実施(環境学習センターと市民学習センターが協働) 7月2日(日) 28人参加 ・児島通生海岸	海辺教室は豪雨災害の影響で中止(環境学習センターと市民学習センターが協働) ・7月22日(日) ・児島通生海岸	継続実施	→		環境学習センター 市民学習センター	82	59	82	【再掲】1-2 海辺教室
自然史博物館の催し案内	市内外の学校教育施設等へ博物館の催し案内を送付する	継続	月1回、記者クラブ、学校教育施設等へ博物館の催し案内を送付した 「広報くらしき」、「パワフルキッズ」、「メールマガジン」で行事案内を行った 年1回、市外近隣地域の小・中学校に利用案内を送付した	記者クラブ、学校教育施設等へ博物館の催し案内を送付する 「広報くらしき」、「パワフルキッズ」、「メールマガジン」で行事案内を行う	継続実施	→		自然史博物館	-	-	-	
環境保全に関する事業の情報提供	環境月間行事や環境保全講演会の開催など、広報を活用し情報を提供する	継続	・環境月間行事として、環境フェスティバルを開催した ・6月3日 環境交流スクエア ・来場者 4,600人	環境月間行事として6月2日(土)に環境フェスティバルを開催予定 ホームページ・広報紙や報道機関へ情報提供し、市民へ参加を呼びかける	継続実施	→		環境学習センター	4,013	3,491	3,655	
「子どもエコクラブ」活動支援	広報、事務局の支援等を通じ、クラブの活動を支援する	継続	広報、会員登録受付、環境に関する情報の提供等を行った	HP、メルマガ等による広報、会員登録受付、環境に関する情報の提供等を行う 小学校を通じて放課後子ども教室への情報の提供を行う	継続実施	→		環境学習センター	-	-	-	
自然観察会、講座等の開催	自然保護団体と協力し市民参加の観察会や講座を開催する	継続	市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催した(総数58件) 「友の会」による自然観察会等の開催を援助した(友の会主催観察会・講座総数12件)	市民が幅広く参加できる自然観察会、講座等を開催する 「友の会」による自然観察会等の開催を援助する	継続実施	→		自然史博物館	442	421	410	予算・実績は教育普及事業
		継続	自然保護団体の観察会等の開催を援助した	自然保護団体の観察会等の開催を援助する	継続実施	→		環境政策課 環境学習センター	-	-	-	

倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表(3)

計画、事業の名称	計画、事業の概要 (主な内容)	新規・継続	H29年度実績	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	主な事業 関係課	H29予算 (千円)	H29実績 (千円)	H30予算 (千円)	備考
天体観望会	季節の天体や星座の観察を行う	継続	季節の天体や星座の観察を行った(12回・901人)	季節の天体や星座の観察を行う天体観望会を定期的に行う	継続実施	→		科学センター	33	0	33	
全国の各団体により、決められた領域を観察し、確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観望会の開催	確認できる星の数の変化を調査する市民参加の星空観望会(アストロクラブ)	継続	環境省の全国星空継続観望の休止にともない、休止した	環境省の全国星空継続観望の休止にともない、当面の間休止する				科学センター	-	-	-	
自然散策路の検討	自然散策コースなどの検討	継続	倉敷市自然保護監視員から自然保護監視員便り等により情報収集を行った	倉敷市自然保護監視員等からの情報収集を行い、自然散策コースなどの検討を行う	継続実施	→		環境政策課	24	24	24	
「倉敷の生き物を探そう!」事業	生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする	新規	生物多様性地域戦略推進のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集を行った(51件の投稿があった)	富士通株式会社の支援を受け、携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用して市内の生き物調査を実施する(サービスはH30年度終了予定)				環境政策課	-	-	-	【再掲】1-1 市民参画による自然調査の実施、携帯クラウドシステムの活用を推進する

